

授 業 内 容

平成28年度（2016年度）

横浜女子短期大学

平成28年度 授業科目 担当教員・履修単位一覧表

区分	授業科目	職名	氏名	授業形態	単位	1年次		2年次		卒業 必修選択	幼免 必修	保育士 必修	備考
						前	後	前	後				
教養科目	キリスト教倫理	非常勤講師	松川 和義	講義	2	○	※			必修	必修	必修	
	哲学	非常勤講師	富山 豊	講義	2	○				} ※1	※2	} ※1	※1から3科目以上 ※2から1科目以上
	日本国憲法	非常勤講師	飯島 麻樹	講義	2	○					必修		
	心理学	教授	佐藤 寛之	講義	2	○					※2		
	生物学	非常勤講師	窪木 幹夫	講義	2	○					※2		
	情報機器の操作	非常勤講師	小野目 如快	演習	2	○	※				必修		
外国語	英語Ⅰ	教授 非常勤講師	北本 洋子 森田 和子	演習	2	○	○			必修	必修	必修	
	英語Ⅱ	教授	北本 洋子	演習	2			○	○	選択			
	比較文化		未開講	演習	2					選択			
保健体育	体育実技	准教授 講師	堀内 弓子 佐久間 博子	実技	1	○	○			必修	必修	必修	
	体育講義	非常勤講師	鹿野 晶子	講義	1		○			必修	必修	必修	
専門教育科目	保育原理	教授	二階堂 邦子	講義	2	○				必修	必修	必修	
	教育原理	教授	岡本 眞幸	講義	2		○			選択	必修	必修	
	保育者論	准教授	本田 幸	講義	2			○		選択	必修	必修	
	保育課程論	教授	二階堂 邦子	講義	2		○			選択	必修	必修	
	保育方法論	教授	二階堂 邦子	講義	2			○		選択	必修	必修	
	保育相談支援	非常勤講師	亀谷 美代子	演習	1				○	選択		必修	
	障害児保育	非常勤講師 非常勤講師	是枝 喜代治 三木 陽子	演習	2			○	○	選択		必修	
	社会福祉	教授 准教授	岡本 眞幸 スティーヴン トムソン	講義	2	○				必修	必修	必修	
	相談援助	講師	石山 直樹	演習	1				○	選択		必修	
	児童家庭福祉	講師	石山 直樹	講義	2	○				必修	必修	必修	
	家庭支援論	准教授	スティーヴン トムソン	講義	2				○	選択		必修	
	社会的養護	准教授	スティーヴン トムソン	講義	2		○			必修	必修	必修	
	社会的養護内容	准教授	スティーヴン トムソン	演習	1			○		選択		必修	
	子どもの保健Ⅰ	非常勤講師 非常勤講師	甲斐 純夫 鏑木 陽一	講義	4	○	○			必修	必修	必修	
	子どもの保健Ⅱ	講師	渡邊 悦子	演習	1			○	○	選択		必修	
	子どもの保健Ⅲ	講師	渡邊 悦子	演習	1				○	選択			
	子どもの食と栄養ⅠA	准教授	曾根 眞理枝	演習	1	○	※			必修	必修	必修	
	子どもの食と栄養ⅠB	准教授	曾根 眞理枝	演習	1			○		必修	必修	必修	
	子どもの食と栄養Ⅱ	准教授	曾根 眞理枝	演習	1				○	選択		本学指定	
	乳児保育	教授	佐野 眞弓	演習	2	○	○			必修	必修	必修	
教育心理学	教授	佐藤 寛之	演習	1			○		選択	必修	必修		
発達心理学Ⅰ	教授	佐藤 寛之	講義	2		○			必修	必修	必修		
教育相談	非常勤講師	小林 聡子	講義	2				○	選択	必修			
児童文化と幼児理解	准教授	本田 幸	講義	2		○			選択	必修	必修		

区分	授業科目	職名	氏名	授業形態	単位	1年次		2年次		卒業 必修選択	幼免 必修	保育士 必修	備考	
						前	後	前	後					
教科 に 関 する 専 門 科 目	声楽Ⅰ	教授	横森 弘之	演習	2	○	○			選択	必修	必修		
	声楽Ⅱ	教授	横森 弘之	演習	2			○	○	選択	本学指定	本学指定		
	図画工作	講師	兼子 真理	演習	2			○	○	選択	必修	必修		
	小児体育	准教授	堀内 弓子	演習	2				○	○	選択	必修	必修	
		講師	佐久間 博子											
生活と言語表現	准教授	本田 幸	演習	1	○					選択	必修	必修		
保育 内 容 研 究 ・ 教 育 実 習	保育内容総論	准教授	本田 幸	演習	1		○			選択	必修	必修		
	保育内容研究	教授	二階堂 邦子	演習	2				○	○	選択		必修	※一部は関連 教科目担当者 による指導
		講師	石山 直樹											
	健康Ⅰ(指導法)	准教授	本田 幸	演習	1	○				必修	必修	必修		
	健康Ⅱ(指導法)	准教授	堀内 弓子	演習	1				○	選択				
	人間関係(指導法)	非常勤講師	河西 恵子	演習	1				○	※	必修	必修	必修	
	環境(指導法)	非常勤講師	窪木 幹夫	演習	1				○	必修	必修	必修		
	言葉Ⅰ(指導法)	准教授	細野 美幸	演習	1	○				必修	必修	必修		
	言葉Ⅱ(指導法)	准教授	細野 美幸	演習	1				○	選択				
	表現Ⅰ(指導法)	非常勤講師	佐々木 梯子	演習	1		○			選択	必修	必修		
	表現Ⅱ(指導法)	講師	兼子 真理	演習	2	○	○			選択	必修	必修		
	教育実習	教授	佐野 眞弓	実習	4				○	○	選択	必修		
		准教授	細野 美幸											
講師	滝口 節子													
教育実習指導	教授	佐野 眞弓	実習	1	○	○	○	○	選択	必修				
准教授	細野 美幸													
講師	滝口 節子													

§ 1. 教 養 科 目

科 目 名： キリスト教倫理 (1年次, 講義2単位)
 担当教員氏名： 松川 和 義

授業の目標及び概要

倫理学の一分野であるキリスト教倫理を学ぶのは、本学の建学精神がキリスト教を柱とするからである。
 聖書が語る神の天地創造、創造の冠として人間。世界を治め、秩序を維持する役目の人間が、もろくも崩れ、混乱に陥る。倫理の乱れである。
 秩序回復の為に、愛の秩序の出現がある。この愛の倫理こそ、保育者に期待されるもの。次世代育成の源であり、命題である。

評価の方法： レポート試験 (70%)、授業への参加度 (30%)

テキスト： 共に生きる (但しプリント配布)
 聖書 (新約聖書、ギデオン協会より贈呈)
 旧約聖書 (プリント配布)

参考図書： 聖書注解書 (新共同訳) I (新約) 日本基督教出版局
 聖書注解書 (新共同訳) II (旧約) 日本基督教出版局
 聖書注解書 (新約) 1 いのちのことば社
 聖書注解書 (旧約) 1 いのちのことば社
 ATD 1 (創世記) ATD出版局
 NTD 1 (新約) NTD出版局
 哲学辞典 岩波書店

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	序	倫理学とは (人の生き方)、キリスト教の位置づけ
2~6	人間とは	神の似姿 罪と共に生きる 暴力に満ちた世界 ちがいから豊かさへ
7~10	人と共に生きる	命の原点 共感する生き方
11~14	私たちの生き方	友、隣人、自由
15		学びの終わり

※具体的には、半期15回の学びである。

※月例集会 (礼拝)、修養会 (1年)、研修会 (2年) がある。

科目名：哲学（1年次、講義2単位）

担当教員名：富山 豊

授業の目標および概要

なぜウソはいけないのか、なぜお金や法律があるのか。子供はときに素朴に哲学的な疑問を発することがある。理論的な回答を説いて聴かせるのがつねに正解ではなかったりするけれども、純粋な知的好奇心からの疑問だったなら、それを頭ごなしに「屁理屈」と相手にしないのは子供の心を傷つけてしまう。理屈を理屈としてまず受け止める知的な体力と柔軟性を養う哲学は、考え方の違う大人同士の対話にも役に立つ。その考え方の基礎体力を身につけてもらう。

評価の方法：授業への参加度(30%)、授業内の提出物(30%)、授業内テスト(40%)

テキスト：なし。授業中に適宜資料・文献等を紹介する。

参考図書：授業中に指定する。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	イントロダクション	授業の進め方と大まかな内容について説明する。
2	ルールを守る意義	杓子定規にルールを守るよりも破った方がよい結果になりそうな場合でも、ルールというだけで守るべきだろうか。
3	少数者の権利	ひとりが我慢すればみんなの利益になるという場合、そのひとりに我慢しなさいと迫るのは正しいだろうか。
4	バレない悪事	誰にも見つからずにこっそり不正をして利益を得ても困る人がいなければ、バレなければオッケーということになるだろうか。
5	個人の自由	あなたはこうした方が幸せになれると他人から忠告をされても、余計なお世話だと思うことがある。個人の自由はどこまで尊重すべきか。
6	幸せって何だろう	何がその人の幸せかという評価は、文化や人それぞれによって違うことがある。みんなが幸せになる社会は目指せるだろうか。
7	努力と平等と情	努力して能力を身につけた人を優遇したり、家族や親しい友人に特別優しくするのは、平等に反する差別なのだろうか。
8	[前半の振り返り]	2-7回の授業についての小テスト・振り返り
9~10	政治と哲学	私たちは多くの国々に別れ、それぞれに法規範や文化的伝統を持って暮らしている。国家の存在に関わる問題について、哲学的に考える。
11~12	法と哲学	法律を持った国家に暮らす私たちは、そのルールに違反すれば罰せられることもある。この法の捉え方についても、哲学的に考える。
13	経済と哲学	私たちの生活はお金なしには成り立たないが、お金にまつわるトラブルが人を不幸にすることもある。経済はなぜ必要なのだろうか。
14	科学と哲学	科学技術は人の生活を便利にする一方、多くの問題を産み出してもいる。科学は人を幸せにするか、知識と技術と幸せについて考える。
15	[後半の振り返り]	9-14回の授業についての小テスト・振り返り

科目名：日本国憲法（1年次、講義2単位）

担当教員名：飯島麻樹

授業の目標及び概要

日本国憲法の基本理念を理解し、実際の社会生活において憲法がどのように関わっているのか、また、様々な社会問題が憲法上どのような点（条文、趣旨等）において問題となるのかを理解する。

評価の方法：授業への参加度（20%）、筆記試験（80%）

テキスト：初宿正典、大沢秀介、高橋正俊、常本照樹、高井裕之編著

「目で見える憲法 第4版」有斐閣

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	ガイダンス	授業の進め方／憲法の基本原理
2	人権享有主体性	子どもの人権、外国人の人権
3	新しい人権	幸福追求権、プライバシー権、自己決定権、環境権
4	法の下での平等	差別と区別
5	精神的自由	信教の自由、表現の自由
6	経済的自由権	職業選択の自由
7	社会権	生存権、教育を受ける権利、労働基本権
8	参政権	選挙権
9	国民の義務／平和主義	教育の義務、勤労の義務、納税の義務／憲法9条の解釈
10	三権分立／立法	権力分立の意義と日本における権力分立／国会
11	行政	内閣
12	司法	司法権の独立、裁判を受ける権利、違憲審査制の内容
13	天皇／財政	天皇／財政
14	地方自治	地方自治の本旨（住民自治、団体自治）、住民投票制
15	憲法改正	憲法改正の手續・限界
試験		

科目名：心理学 (1年次，講義2単位)
 担当教員氏名：佐藤寛之

授業の目標及び概要

本講義では、現代の心理学によってみいだされた心理学的知見を紹介していきます。本講義を通じて、みなさんは、認知過程、人格、社会的影響過程、対人関係といった心理学の研究の枠組みにそって、人間の心理過程、法則性について学びます。特に、「こころ」の「機能」について、個人内に生起する過程としての、感覚、知覚、記憶、思考、感情等の概念によって記述される「認知」（知ること）と、個人間に生起する過程としての「対人行動」にかんする知見を中心に学び、さらに、それらの相互関係についての理解を形成します。そして、「自己」にかんする認知の重要性、「パーソナリティ」とは何か、について学びます。

評価の方法： レポート試験（67%）、授業への参加度（33%）
 テキスト： 指定しない。別途説明用資料を授業内で配布。
 参考図書： 横浜国立大学『情報と人間』プロジェクトチーム 編著
 『情報社会と次世代ライフスタイル』電通
 長谷川寿一 他 著『はじめて出会う心理学』有斐閣アルマ
 無藤隆 他 著『心理学』New Liberal Arts Selection 有斐閣

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	ガイダンス	心とは何か、心理学が扱う問題と方法を理解する
2～4	感覚と知覚 —視覚系を中心に— (見ること、聴くこと 私たちが体験している 「現実」はどのように 造られるのか?)	知覚の恒常性、錯視現象、ブルンズウィックの確率論的機能主義 (遠刺激と近刺激の関係) について学ぶ 知覚のボトムアップ過程とトップダウン過程の相互関係を学ぶ 「何がみえる? どんなふうに見える?」 錯視、パタン認識について学ぶ 感覚の過程：感覚器官と適刺激、絶対閾と弁別閾について学ぶ 明るさの対比、日常生活と精神物理学的法則との関係について学ぶ
5～7	記憶過程と心的資源配分 (憶えること、気がつく こと、わかること、自分 とは?)	記憶の機能的区分(感覚記憶、短期記憶、長期記憶) (意味記憶、エピソード記憶、動作記憶)を学ぶ 長期記憶とスキーマ概念；認知のガイド機能と注意について学ぶ スキーマの機能の例；因果スキーマと原因帰属、対人認知スキーマ とセルフ・スキーマについて学ぶ 「私はUFOを見た！」は現実か？；想起の構成的過程について学ぶ 無意識・下意識の働きについて学ぶ
8～10	パーソナリティ： (個人差、個性「私、どん な性格なの?」)	Y-G 性格検査の実施し、採点をおこなう。また、簡易式エゴグラム・ テストの実施し、採点をおこない、両検査の特徴、差異等を理解する パーソナリティの概念 気質、性格とパーソナリティの関係を学ぶ
11～13	意志決定における合理性 (考えること)	心的方略、規範的合理性とヒューリスティックスについて学ぶ 確率判断におけるヒューリスティックスと認知的錯覚の例； 賭博者の誤謬—「コイン投げ、そろそろ表が出る頃だ!」、「パー ゲン品?買ったら本当にお得なの?」「赤信号みんなで渡れば怖く ない!」「賭か?あるいは堅実か選択か?」について学ぶ チャレンジャー号はなぜ爆発したのか?；集団思考について学ぶ 認知的不協和の理論とマインド・コントロールについて学ぶ
14～15	親密化過程 (人とのふれあいと仲良 くなること)	対人魅力の規定因について学ぶ LETS-2の実施し採点をおこない、検査結果の意味を理解する リーの恋愛の類型理論、デート・スキルと相互作用について学ぶ 恋愛と友愛、恋愛と錯誤帰属の関係について学ぶ 親密な対人関係の形成、維持、崩壊過程について学ぶ

科目名：生物学 (1年次, 講義2単位)
 担当教員氏名：窪木幹夫

授業の目標及び概要

都市の自然環境の中で生きる生物の生活を知り、自然環境の大切さを考える。講義が行われる4月から7月にかけて見られる身近な生物を材料に取り上げる。講義内容と身の回りの生物の生活が同時進行するので、得られた知識に基づいて、積極的に生物を観察し、栽培する。

評価の方法： レポート (80%)、授業への参加度 (20%)

テキスト： 指定しない。

参考図書： 必要に応じて紹介する。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明とねらい 自然観察の方法
2～6	カントウタンポポとセイヨウタンポポの生活戦略	タンポポを探そう、タンポポ3種の見分け方 カントウタンポポ (在来種) セイヨウタンポポ (外来種) シロバナタンポポ 種子生産と稔性率、生殖法の違い 種子の散布様式と散布範囲 発芽習性と生残率 タンポポによる環境評価 (アセスメント) タンポポや、野の草花で遊ぶ
7～8	都会で生きる動物たち	ツバメ、カルガモ、ハシブトガラス、セミ
9～11	植物の栽培	グリーンカーテンをつくる アサガオ、ゴーヤ、ヘチマ 日差しをさえぎり、日陰をつくり、室温を下げる
12～13	果実のつくり	真果と偽果 カキ、リンゴ、イチゴ、モモ、ミカン、トマト
14～15	アサガオが教えてくれる 環境汚染	光化学スモッグの発生のしくみと被害 オゾンによるアサガオの被害症状 酸性雨によるアサガオの被害症状

科 目 名： 情報機器の操作 (1年次, 演習2単位)

担当教員氏名： 小野目 如快

授業の目標及び概要

昨今のパソコンの低価格化とインターネットの発達により、様々な場所でパソコンの操作を求められることが多くなりました。しかし、パソコンの理解は実際に機器に触れて操作してみないと納得できないものです。そこで本講座では、演習をとおして、Windows の基本操作や、ワープロ、表計算の利用方法等を学習します。

評価の方法： レポート (100%)

テ キ ス ト： 小野目如快 著『Office2013 で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版

参 考 図 書：

授 業 展 開 予 定

展開区分	項 目	内 容
1	Windows の基本操作	電源の ON、OFF から、Windows の基本操作までを学習します
2	ファイル操作	エクスプローラによるファイルの操作方法を学習します
3	ワープロ (基本編集)	Word の基本編集とクリップボードについて学習します
4	ワープロ (文書作成)	Word のワープロとしての基本機能を学習します
5	ワープロ (表と罫線)	表の作成方法、罫線の引き方を学習します
6	ワープロ (オブジェクトの利用)	各種グラフィックの利用方法を学習します
7	ワープロ (検定問題)	日本語ワープロの検定問題にチャレンジします
8	プレゼンテーション	PowerPoint を利用し、紙芝居を作成します
9	表計算 (基本入力)	Excel を使用し、基本的な入力・編集方法を学習します
10	表計算 (グラフ)	Excel でグラフを作成します
11	表計算 (データベース)	Excel をデータベースとしての利用する方法を学習します
12	表計算 (関数)	Excel での各種関数とシリアル値について学習します
13	表計算 (検定問題)	表計算の検定問題にチャレンジします
14	画像処理 (その1)	PhotoShop を利用し、レイヤーによる画像合成を学習します
15	画像処理 (その2)	PhotoShop を利用し、画像修正の方法を学習します

§ 2. 外 国 語

科目名：英語 I (1年次、演習2単位)
 担当教員氏名：北本洋子

授業の目標及び概要

日本社会の国際化に伴い、保育の現場でも外国人園児が増加しています。子どもへの言葉かけや、登園・降園時の保護者との会話、情報伝達に使える英語を学びます。難しい英語を学ぶのではなく、基本的な文法を再確認し、保育の現場でよく出会う語や表現を知って、将来職場で生かせる英語力を身につけます。

評価の方法：小テスト(30%)、前期末テスト(30%)、後期末テスト(30%)
 受講態度(授業や宿題への取り組み方)10%

テキスト：森田和子著『新・保育の英語』三修社

参考図書：必要に応じて紹介します。

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、自己紹介
2	新学期	初対面のあいさつ、園の人々と設備
3	登園	登園時の会話、家族、人物描写
4	室内あそび	室内あそびと玩具、欠席の電話連絡
5	砂あそび・園庭	外あそびの指導、園庭の遊具と植物、
6	けんか	ゲームの指導、さまざまな行為とけんか
7~8	文法のおさらい1	一般動詞と be 動詞
9	昼食	昼食時の指導と会話、食材や食器
10	着替え	衣類や持ち物についての連絡
11	昼寝	トイレの指導、衣類と持ち物
12	病気	病気への対処、身体各部の名称
13	緊急連絡	保護者への緊急連絡、気持ちと様子
14	文法のおさらい2	疑問文・否定文・命令文
15	復習とまとめ	
16	行事の案内	行事の案内状、電話連絡
17	運動会	さまざまな運動
18~19	散歩1	付近の建物や施設、場所の表現
20	散歩2	道案内

21	お絵かき	色々な形、作業の指示
22～23	文法のおさらい3	前置詞
24	工作	文房具、作業の指示
25	降園	降園時の会話、クラスからのお知らせ
26	連絡帳	連絡帳の記入、乳児室の物品
27	家庭調査書	家庭調査書の書式、園行事
28	園だより	年間行事と園だよりの書き方
29	文法のおさらい4	疑問詞を使った疑問文
30	復習とまとめ	

科目名：英語 I (1年次, 演習2単位)
 担当教員氏名：森田和子

授業の目標及び概要

保育所や幼稚園に入園してくる外国人の子どもが急増して、国際化は保育の現場でも起こっています。このような現場に欠かすことのできない英語表現を、目と耳と口と手を（ときには足も）使ってアクティブに学んでいきます。

多少の間違いなど気にせずに、「とにかく伝えるべきことは何としても相手に伝える」という姿勢を身につけましょう。

評価の方法： 期末テスト (50%)、小テスト (30%)、課題 (10%)、授業への取り組み方 (10%)

テキスト： 森田和子 著『新・保育の英語』三修社

参考図書： 授業の中で紹介します。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	ガイダンス	なぜ保育の英語を学ぶのか、自己紹介
2	新学期・園の人々・園舎	入園時の挨拶、園の人々の呼称、保育時間や園舎の説明、
3	登園・家族	登園時の会話、人物描写（職業・年齢・体格・髪型・服装）
4	室内あそび・欠席の連絡	室内のあそびと玩具、病気やけが、欠席の電話連絡
5~7	外あそび・遊具・けんか	園庭での遊びと遊具、植物、けんかと怪我、ゲームの指導、童謡
8	<文法1>	文法のおさらい
9	昼食・献立表	昼食時の指導、食物、食器、献立
10	着替え・おはなし	着替えの指導、衣類や持ち物についての依頼、絵本の読み聞かせ
11	トイレ・お昼寝	排泄と午睡に関する表現

展 開 区 分	項 目	内 容
12～13	病気と緊急連絡	電話での緊急連絡、身体各部の名称
14	<文法2>	文法のおさらい
15	まとめ	
16	行事の案内状・電話連絡	行事の連絡と案内状
17	運動会・動作	運動や動作に関する表現
18～19	散歩	町内の商店や施設、交通案内、交通安全指導
20～23	お絵かき・工作	色、形、文房具、作業の指示、はがきや手紙の書式
24	<文法3>	文法のおさらい
25	降園・お知らせ	降園時の会話、掲示物、日時
26	連絡帳・乳児室	連絡帳の書き方、乳児室に関する表現
27	家庭調査書	家庭調査書の書式
28	園だより・園行事	園だよりの書き方、園行事の表現、卒園時の挨拶
29	<文法4>	文法のおさらい
30	まとめ	

科目名：英語Ⅱ (2年次, 演習2単位)
 担当教員氏名：北本洋子

授業の目標及び概要

ビデオ教材“*First Time Abroad (初めての海外旅行)*”を視聴しながら、海外旅行で役立つ英語表現を身につけます。行き先はオーストラリア。現地ロケ制作のビデオにより、明るいオーストラリアの風景の中に自分がいるような気分で、聞き取りや会話の練習をします。また、併用するいろいろな教材で、英語らしい発音の獲得と聞き取り力のアップをめざします。

評価の方法： 授業内の活動 (80%)、「おさらいミニクイズ」(20%)
 「おさらいミニクイズ」は各課の内容がどのくらい身についたかを自己チェックするために口頭または筆記で行います。期末試験はありません。

テキスト： 佐藤公雄 編著“*First Time Abroad (初めての海外旅行)*” 成美堂

参考図書： 必要に応じて紹介します。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	ガイダンス 「機内で」	授業の進め方の説明。機器操作の説明。 「飛行機に搭乗する」場面を視聴しながら実際に機器を操作してみる。
2	「機内で」	搭乗券の見方。 機内サービスを受ける。
3~4	「入国する」	入国手続をする。 税関を通る。
5~8	「ホテルで」	ホテルにチェックインする。 各種サービスを受ける。 チェックアウトする。
9~13	「市内を歩く」	観光案内所を訪れる。 バスに乗る。 タクシーに乗る。 道をたずねる。
14~15	「観光する」	美術館を訪れる。 写真を撮る。

展 開 区 分	項 目	内 容
16～18	「買物をする」	デパートで服を買う。 みやげものを買う。
19～22	「食事をする」	ホテルで朝食をとる。 ファースト・フードの店で昼食をとる。 レストランで夕食をとる。
23～24	「郵便局で」	日本に手紙や小包を送る。
25～26	「電話をかける」	日本に電話をかける。
27	「遺失物取扱所で」	忘れ物を探す。
28～29	「医院で」	医者にかかる。
30	まとめ	

§ 3 . 保 健 体 育

科目名： 体育実技 (1年次, 実技1単位)

担当教員氏名： 堀内弓子・佐久間博子

授業の目標及び概要

<p>「体育」は、運動と保健・衛生の知識と実践を通して、人間性の発展を企図する教科である。</p> <p>本授業においては、下記の内容（実技）を通し、身体活動の価値を認識し、生涯にわたって体育・スポーツを続けていく素地を養うことを目標とする。</p> <p>さらに、保育の対象となる子どもの発育発達に必要な基本的な運動の種類やその系統的・段階的発達過程を自らの身体活動を通じて理解し、それを展開するための知識や技術を習得することを目指す。</p> <p>＜前期＞体 操…自分の身体への「気づき」から、自分の意志通りに、のびのびと正確に動く「からだづくり」「うごきづくり」を目指す。</p> <p>ダン ス…音楽に合わせて、イメージを働かせ、豊かな身体表現を身につける。</p> <p>＜後期＞球技スポーツ…「サッカー」「ドッジボール」</p> <p>同じ球技でも、違った特性を持つ2種目を行い、ボールを扱う技術を養うとともに、協力、責任、公正さといった態度を身につける。</p> <p>また、ゲームの進行・運営を自主的に行えるようにする。</p> <p>マット、跳箱…用具の特性を生かして、「歩く」「走る」「跳ぶ」「支える」などの基本的な運動を系統的に実践し、安全に行う方法を学ぶ。</p> <p>縄 …縄を利用した遊びを楽しむとともに、自らの体力づくりに役立てる。</p>

評価の方法： 授業への参加度・学習態度（50%）、授業内テスト等運動技術（50%）

テキスト： 橋本 妙子・堀内 弓子 著『こどもの運動あそび』啓明出版

参考図書： 授業内で随時、紹介する。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1～7	体操・リズム運動	音楽のリズムを感じながら、楽しくからだを動かすことを学ぶ。 ◇動きの基本動作を多く含んだ作品 ◇リズムカルで軽快なステップを中心とした作品 ◇姿勢を意識しながらの行進 ◇子どもとともにできる模倣的作品
8～10		上記の体操に加え、こどもとの関わり方を学ぶ。 ◇だっこ・おんぶ・肩車・肩立ち等の安全な行い方 ◇スキップ・ギャロップ等のステップの誘導の仕方
11	デモンストレーション	日頃の授業の成果の発表。 実際に、運動を通して子どもとコミュニケーションをはかり、発育発達の状況や、子どもが安全に、かつ、楽しく取り組める運動についての理解を深める。
12	体力測定	自分の身体の現状を知る
13～15	基本体操 (ラジオ体操第1)	動作の目的に合わせて、自分の意志通りに正確にからだを動かせるよう、動きの練習を行う。 ◇身体各部位と運動方法の理解 ◇各部位の動きを様々な姿勢で行い、その特徴を理解 ◇グループ練習 ◇基本体操で学んできたことの総まとめと評価

展 開 区 分	項 目	内 容
16	後期オリエンテーション	後期の授業の概要とねらい ◇各球技スポーツの特徴を理解する
17～20	サッカー	サッカーの基本技能 ◇キック、ドリブル、ストップ、ヘディング等 ◇パス練習 ◇ディフェンスをつけて、パス～シュート ◇隊列ボール蹴り、ラインサッカー等のゲーム 簡易サッカー・ゲーム ◇班別対抗リーグ戦 ◇ゲームの進行・運営の方法を学ぶ ◇ゲームの分析～作戦を立てる
21～22	運動会リハーサル	当日の流れを理解する
23～24	運動会	運動を通して、異学年や教職員とかかわる楽しさを味わう
25	レポート課題（図書館活用）	
26～30	ドッジボール	基本技能～ゲーム ◇パス、ヒットの練習 ◇ルールの決め方（対象や場所によって工夫する） ◇正式なルールの説明 ◇中当て～ゲームの実践（ボール1個～2個）
	くまさん体操	準備運動をかねて実践
	マット、跳箱	基本的な運動～前転、開脚とび ◇上肢で体を支える運動 ◇横転や前転の練習 ◇跳箱を活用して「跳ぶ」運動 ◇開脚とびに挑戦
	縄	縄を使った遊びや体力づくり

科目名： 体育講義 (1年次, 講義1単位)

担当教員氏名： 鹿野晶子

授業の目標及び概要

「体育」の第一義的な意義は、からだを育てることであると考えられる。したがって、この講義では、子どものからだを育てることを目的に据え、“体力”をひとつの題材として、その現状と現代的課題について学び、課題を解決するのに必要な具体的方策を立てる能力を養うことを目指す。

評価の方法：レポート試験 (50%)、授業への参加度 (50%)

テキスト：なし

参考図書：子どものからだと心・連絡会議編『子どものからだと心白書 2015』ブックハウス・エイチディ

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	オリエンテーション	授業計画, 評価方法について
2	体格の発育	◇ 子どもの体格の発育について学習し, 現代的健康課題について考える。
3	子どもの体力 (1)	◇ “体力” とは何か, その定義と要素について理解する。
4~6	自律神経機能	◇ 体温調節機能の現状について学習するとともに, 現代的健康課題について考える。 ◇ 血圧調節機能の現状について学習するとともに, 現代的健康課題について考える。
7	免疫能	◇ 免疫能の機能と現状について学習するとともに, 現代的健康課題について考える。
8~9	ホルモン	◇ 各種ホルモンの役割や分泌リズム等について学習するとともに, 現代的健康課題について考える。
10~11	心の発達	◇ 高次神経機能, いわゆる “心” の発達状況について学習するとともに, 現代的健康課題について考える。 ◇ “心” の発達を目指した取り組みを創造する。
12	子どもの体力 (2)	◇ 体力・運動能力についてまとめる。
13	子どものいのち	◇ 子どもの生存問題について学習するとともに, 現代的健康課題について考える。
14	環境問題	◇ 子どもをとりまく環境問題について学習するとともに, 現代的健康課題について考える。
15	まとめ	まとめとレポート提出

§ 4 . 專 門 教 育 科 目

科目名： 保育原理 (1年次, 講義2単位)
 担当教員氏名： 二階堂邦子

授業の目標及び概要

幼児教育の根幹は、子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を育て、心身の発達を促すことである、この科目は、保育に関する最も基本的な考え方を学ぶ科目である。そのために現在の保育の現状や制度、保育の歴史を知り、保育の主体は子どもであることを理解して、保育のねらい、内容の保育計画の道筋を探求し、保育の原理を理解する。

評価の方法： 授業態度 (20%) 提出物 (30%) 試験 (50%)

テキスト： なぜからはじめる 保育原理
 池田隆英、上田敏文、楠本恭之、中原朋生 (編著) 建帛社

参考図書：

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1~2	保育の理念と概念	意義、保育の現状と機能、福祉としての保育
3~4	日本の保育制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育制度史 ・ 戦前、戦後の歴史
5~6	保育の思想史	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立者 平野恒にみる保育理念 ・ 保育思想の展開
7~8	子ども理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの概念と子ども理解 ・ 子どものおかれている状況 ・ 発達過程に応じた保育
9~11	保育所保育指針 幼稚園教育要領の変遷 認定こども園教育・保育要領	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本原理と変遷
12~13	保育のねらいと保育内容 と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育内容のねらいと内容の考え方 ・ 5領域としての保育内容
14	保護者支援と地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援、地域支援の現状
15	保育職務の全体像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の役割

科目名： 教育原理 (1年次, 講義2単位)

担当教員氏名： 岡本真幸

授業の目標及び概要

- ・ 教育の意味や必要性、法制度、教育における目的、内容・方法等について理解する。
- ・ 教育の思想・理論について学び、「教育」に対する視野（ものの見方）を広げ、深める。
- ・ 教育の現状と課題について学び、今日の教育に対する関心や課題意識をもつ。

評価の方法： 授業への参加度（30%）、授業内テスト（40%）、レポート（30%）

テキスト： とくに指定しない。適宜プリントを配付する。

参考図書： 三井善止 編著『新説 教育の原理』玉川大学出版社

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	教育の意味	(授業概要説明) 保育・幼児教育の法制度の概要、教育の意味
2	教育の必要性	人間と動物の違い、教育における限られた大切な時期(臨界期)
3	発達と教育	発達段階と発達課題、乳幼児の発達過程
4	差別と教育	差別意識(障害、性差等)の解消と幼児教育の意義
5	小1問題と幼児教育	「小1プロブレム」と幼児教育の課題
6	教育の目的・目標	わが国の教育目的、保育・幼児教育における目的・目標
7	教育の内容と方法	カリキュラム、教授法と学習法 / 【授業内容の確認テスト①】
8～11	今日の幼児教育に大きな影響を与えた教育の思想・理論	近代教育学の祖・コメニウスの教育論 子どもの発見者・ルソーの教育思想 民衆教育の父・ペスタロッチの生涯と教育論 幼児教育の祖・フレーベルの教育論 「新教育運動」とデューイ、モンテッソーリの教育論 わが国の幼児教育論(倉橋惣三ら)
12～14	教育の現状と課題	今日の教育の課題・問題について (特別支援教育の考え方、いじめの問題など) / 【授業内容の確認テスト②】
15	授業のまとめ	授業内容の総括

科目名 : 保育者論 (2年次, 講義2単位)

担当教員氏名 : 本田 幸

授業の目標及び概要

現在、保育者に求められる役割は、子どもの育ちを支える、保護者の育児を支援するなど、多様化しています。この授業では、保育の場で仕事をする保育者像をより確かなものにしていくために、保育者の役割・職務を統合的に学びます。保育の仕事の制度的位置づけについて確認し、保育者の専門性について理解を深めていきたいと思います。保育者の仕事の具体的な働きや保育者としての協働について学びます。なぜ自分は保育者という職業を選択し、日々保育者になるために学んでいるのかを自らに問いかけながら、保育者としてのあり方や働きについて互いに学んでいこうと思います。

評価の方法 : 授業への参加度 (10%)、レポート等 (40%)、筆記試験 (50%)

テキスト : 『最新保育講座 保育者論』 汐見稔幸・大豆生田啓友 編、ミネルヴァ書房

参考図書 :

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	オリエンテーション	
2	「保育者になる」ということ①	保育者の制度的位置づけについて学ぶ。
3	「保育者になる」ということ②	魅力的な保育者、理想とする保育者像について考える。
4	保育者の一日①	具体的な仕事の流れから、保育者のあり方について考える。
5	保育者の一日②「保育者」という仕事	
6	子どもの思いや育ちを理解する仕事①	「子どもをわかる」ということについて考える。
7	子どもの思いや育ちを理解する仕事②	「子どもが育つ」、「子どもを読み解く」ということについて考える。
8	子どもと一緒に心と体を動かす仕事①	
9	子どもと一緒に心と体を動かす仕事②	
10	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事	子どもと豊かな生活をするための保育者のあり方について考える。
11	保護者や家庭と一緒に歩む仕事①	園における保護者への支援について考える。
12	保護者や家庭と一緒に歩む仕事②	地域における子育て支援について考える。
13	学び合う保育者①	保育者の専門性と省察について考える。
14	学び合う保育者②	保育者の成長と同僚関係について学ぶ。
15	保育者の専門性とは	

科目名： 保育課程論 (1年次 講義2単位)
 担当教員氏名： 二階堂 邦子

授業の目標及び概要

保育は子どもの生活である。乳幼児期の特性を考慮し、遊びや生活を通して保育の目的を達成するところに意義がある。それには、教育5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）と養護に関する保育の内容を関連性を持って総合的に展開されることを理解する。それらを理解し計画し、実践し、評価し、改善し保育の質をたかめていく指導計画を作成する。

評価の方法： 授業態度（20%） 提出物（30%） 試験（50%）

テキスト： なぜからはじめる 保育原理
 池田隆英、上田敏文、楠本恭之、中原朋生（編著） 建帛社

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	ガイダンス	・保育・教育課程の意義と科目の特性
2～4	保育内容の基本	・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」におけるねらいと保育内容のとらえ方 5領域の構造（健康・人間関係・環境・言葉・表現）
5～6	保育課程・教育課程の編成	・「保育指針」と「幼稚園教育要領」の「認定こども園教育・保育要領」の特性 ・保育課程・教育課程の編成から長期、短期授業計画
7～8	幼児の発達と生活	・幼児の発達と生活、幼児理解
9～12	保育内容と保育計画	・保育計画、指導計画の考え方 ・指導計画の実践（作成）
13～14	保育評価と記録	・保育実践の評価と記録 (PDCAサイクル) ・自己評価
15	保育内容における現状と課題	・生活環境の変化と保育内容、保育サービスの課題

科 目 名 : 保育方法論 (2年次 講義2単位)
 担当教員氏名 : 二階堂 邦子

授業の目標及び概要

子どもたちの育ちを園生活の中で支えていくための具体的な方法を学ぶ。それには乳幼児の理解、保護者の援助と支援、保育の形態、子どものおかれている環境やメディア、他の機関との連携について知識を習得し、よりよい保育の方法を習得する。学び方は、具体的な事例を通してその手段や手順を探究する。

評価の方法： 授業態度 (20%) 提出物 (30%) 試験 (50%)

テキスト： 保育方法の探究
 浅見 均・田中 正浩 編著 大学図書出版

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	ガイダンス	保育方法論の意義と目的
2～4	保育方法の基本を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針をよみとく ・ 0歳～6歳児の心・身体の発達発育の理解と保育方法 ・ 発達の特性に応じた保育のあり方
5～8	保育者の指導・援助の方法を探る	<ul style="list-style-type: none"> ・ あそびとは何か、あそびの実態 ・ あそびの展開と保育者の役割 ・ 園行事の課題 ・ 園行事と保育者の役割
9～10	保育形態を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個の育ちと集団の育ち ・ 様々な保育形態 ・ 指導計画と保育方法
11～13	指導・援助を支え、育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境のもつ意味 ・ 環境と保育の創造 ・ 子どもの文化、メディア
14～15	保育の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭と共に創り出す保育 ・ 幼稚園、保育所、小学校の連携

科 目 名： 保育相談支援 (2年次, 演習1単位)
 担当教員氏名： 亀谷美代子

授業の目標及び概要

児童福祉法、保育所保育指針等を通して、保育相談支援の意義について理解し、保育士資格の歴史や業務の変遷を学び、保育士の相談業務の原理や基本、その構造等について認識する。子育て中の保護者の現状を理解し、保育士の専門性を生かし保護者支援の基本を習得する。さらに、相談援助のニーズの状況を理解し、保育相談支援の実際から、相談支援の内容や、方法を習得する。また、他機関の支援機能を学び、保育相談の支援限界を認識し、連携体制の必要性を理解する。

評価の方法： 授業への参加度 (30%) 提出物 (30%) 試験 (40%)

テキスト： 特に指定しない、適宜プリントを配布する。

参考図書： 新・保育士養成講座編纂委員会 編『家庭支援論』全国社会福祉協議会発行
 その他随時紹介

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	・保育相談支援とは何か	・保育相談支援とは何か
2	・保育の特性と保育士の専門性を生かした支援	・保育士資格の法制化とその経緯 ・保育相談支援の原理
3	・子どもの最善の利益と福祉の重視	・保育相談支援の構造と展開
4	・子どもの成長の喜びの共有	・子どもの最善の利益の意味
5	・保護者の養育力の向上に資する支援	・子どもの最善の利益を考慮する視点 ・子どもの最善の利益を考慮する4段階
6	・信頼関係を基本とした受容的関わり、自己決定、秘密保持の尊重	・保育者と保護者の信頼関係
7	・地域の資源の活用と連携・協力	・保護者の信頼関係を築くために ・保護者の養育力とは
8	・保育所における保育相談支援	・保護者の意向「思い」に目を向ける
9	・保育相談支援の方法と技術	・受容的関わり
10	・保育相談支援の展開場面と手段	・保護者による自己決定の尊重 ・秘密保持
11	・保育相談支援の展開過程と評価	・保育者による相談支援の範囲
12	・保育所における保育相談支援の実際	・子育てを支援する地域のさまざまな資源とその活用
13	・保育所における特別な対応を要する家庭への支援の実際	・保育指導と保育相談支援
14	・他の児童福祉施設における保育相談支援の実際	・保育相談支援の特性
15	・新しい保育相談支援の実際	・保育相談支援の対象 ・保育相談の方法
		・保育相談支援で活用される技術
		・保育相談支援の展開場面
		・保育相談支援の資源と手段
		・保育相談支援の展開過程の特徴
		・保育相談支援の過程
		・保育相談支援の記録と評価
		・保育所における保育相談支援の特徴
		・日々のコミュニケーション
		・保護者の表現・参加を通じたエンパワーメント
		・特別な対応を要する家庭への支援の意義
		・特別な対応を要する家庭への支援の基本
		・ひとり親家庭への支援
		・児童養護施設・障害児施設・母子生活支援施設等の保育相談支援の実際
		・児童家庭支援センター・地域子育て支援拠点等での新しい保育相談支援

科 目 名：障害児保育（2年次、演習2単位）

担当教員指名：是枝 喜代治

授業の目標及び概要

今、保育の現場では、多様化するさまざまな子どもたちの姿があります。特に、「気になる子ども」としてくられる「発達障害」が考えられる子どもに対しては、その特性や一人一人の個性に応じた保育内容や配慮・手立ての工夫などが求められています。

この講義では、知的障害（ダウン症、言語障害など）、身体障害（脳性まひなどの肢体不自由）などの障害のある子ども、発達障害（広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害など）が考えられる子ども、視覚障害、聴覚障害などの感覚障害のある子どもたちの各障害の特性を理解し、保育内容や園内での手立ての具体的なポイントについて学びます。また、障害児保育や特別支援教育の中で応用されているムーブメント教育・療法の概要を理解し、実技などを通して、日常の障害児保育に生かしていく力を高めます。さらに、保護者への対応や関係機関との連携のあり方などについても学びます。

評価の方法：授業への参加度(40%) 授業内で実施する複数回のリアクションペーパー(20%) 筆記試験(40%)
(テキスト、ノート等、持ち込み可)

テキスト：『実践に生かす 障害児保育』 前田泰弘 編著 萌文書林

参考図書：講義の中で適宜紹介します

授 業 展 開 予 定

展 開 部 分	項 目	内 容
1～2	障害児保育とは	障害児保育の概要、近年の特別支援教育の動向、児童福祉施設での障害児保育などの現状を理解する
3～4	障害児保育の基本	気になる子どもの発達評価など、障害児保育の基本を理解する
5～6	障害の理解と保育1（知的障害）	知的障害の障害特性や支援の基本を理解する
7～8	障害の理解と保育2（肢体不自由）	肢体不自由の障害特性や支援の基本を理解する
9～10	発達が気になる子どもの保育	発達が気になる子どもの要因や支援の基本指針等を理解する
11～12	障害の理解と保育3（発達障害）	自閉症（ASD）、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）等の各障害特性や支援の基本を理解する
13～14	個別の保育計画の作成と評価	個別の保育計画の内容や作成に向けた指針などを理解する
15	春学期授業のまとめ	春学期の授業を振り返る（レポート等にまとめる）
16～17	個々の発達を促す生活や遊びの環境	事例分析などを通して、発達支援のあり方を学ぶ ムーブメント教育・療法による実技（身近な遊具（ビーンズバック、パラバルーン等）を利用した実技を体験する）

18～19	他者とのかかわりと育ちあい	集団保育、統合保育場面における気になる子どもの配慮のあり方を学ぶ
20～21	家庭や関係機関との連携	家庭を交えた、望ましい機関連携のあり方を学ぶ
22～23	早期発見・早期支援	健康診断制度や発達相談の仕組み等を理解する 近年、推奨されつつある5歳児検診の現状を理解する
24～25	障害のある子どもの就学に向けた支援	小学校への就学に関する諸課題や地域で行われている就学相談システムの仕組み等を理解する
26～27	障害児保育の現状と課題	事例分析を通して、医療や保健、その他の専門機関と連携していく現状やその課題等を理解する
28～29	支援の場の広がりをつながり	発達が気になる子どもの事例を通して、子どもの生涯のライフステージを見据えた支援のあり方について学ぶ
30	秋学期のまとめ及び授業内試験	秋学期の授業を振り返る（授業内試験の実施）

科 目 名： 障害児保育（2年次，演習2単位）

担当教員氏名： 今井 智子

授業の目標及び概要

障害児保育の歴史や統合保育について学び、講義・視聴覚教材・グループワークを通して、障害のある子どもの特性を理解し、その特性に配慮した関わり方について理解を深めます。また、個別の支援計画の立案から関連機関との連携、保護者支援について学習します。

評価の方法： 授業への参加度(50%)、 発表・レポート(50%)

テキスト： 渡部信一・本郷一夫・無藤隆 編著 『障害児保育 [新版]』 北大路書房

参考図書： 講義の中で随時紹介

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	はじめに	講義全体のオリエンテーション
2~3	障害児保育の基本的理解	障害児保育とは
4~6	障害児保育の歴史、対象	障害児保育の歴史と理念、障害児保育の対象とその特徴
7~9	障害児保育の方法	障害児の生活に関する保育方法
10~12	障害の理解と援助 (1)	知的遅れのある子どもの保育
13~15	障害の理解と援助 (2)	からだの不自由な子ども・病気がちな子どもの保育
16~18	障害の理解と援助 (3)	行動と情動の調整のむずかしい子ども
19~21	障害の理解と援助 (4)	言葉の遅れのある子どもの保育
22~23	保育の計画	園での保育の計画
24~25	家庭・地域との連携 (1)	障害児保育に関する関連機関との連携・協働
26~27	家庭・地域との連携 (2)	障害のある子どもの保護者への支援
28~29	家庭・地域との連携 (3)	保護者の声から学ぶ
30	まとめ	障害児保育のトピックス、講義のまとめ

科目名： 社会福祉 (1年次, 講義2単位)

担当教員氏名： 岡本 眞幸、 スティーヴン・トムソン

授業の目標及び概要

- ・現代社会における社会福祉のもつ意義、考え方、役割、及び歴史の変遷の概要について理解する。
- ・社会福祉の法制度や実施体制等について理解する。
- ・児童家庭福祉における子どもの人権や家庭支援等について理解する。
- ・相談援助の基本的な考え方・方法について理解する。

評価の方法： 授業への参加度 (20%)、試験① (40%)、試験② (40%)

テキスト： 橋本・宮田編『保育と社会福祉』(株)みらい 2015年

参考図書： 『保育福祉小六法 2016年版』(株)みらい

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	保育と社会福祉	授業ガイダンス、現代社会の様相、生活課題と社会福祉
2	社会福祉とは	社会福祉の意味、社会福祉・社会保障の体系、社会福祉の理念
3	社会福祉の歴史	我が国における社会福祉の歴史の変遷
4～5	社会福祉の実施体制	行政の組織・機関、民間の福祉団体、社会福祉施設
6	社会福祉の法制度	日本国憲法、社会福祉法、福祉六法、その他の主な法制度
7	学習内容の確認	確認テスト(試験①)など
8	前半授業の総括	(前半の) 授業内容のまとめ、確認テストの解答解説
9～12	子どもの人権と 児童家庭福祉	子どもの人権と児童福祉の理念 (子どもの権利条約、子ども家庭福祉の理念など) 児童家庭福祉の実施と動向(在宅、施設サービスなど) 保育施策の動向(保育所など)
13～14	相談援助の意味と方法	相談援助(ソーシャルワーク)の意味・原則 相談援助(ソーシャルワーク)の視点、 相談援助(ソーシャルワーク)の種類など
15	後半授業の総括	(後半の) 授業内容のまとめ ※(試験期間に) 試験②

科目名： 相談援助 (2年次, 演習1単位)
 担当教員氏名： 石山直樹

授業の目標及び概要

保育所保育士は、子どもの保育に加え、保護者に対する支援や地域における子育て支援を行う役割を担っており、その支援方法のひとつとして相談援助があげられます。児童養護施設などに勤務する保育士も同様に、子どもの養護に加えて、退所児(者)や地域の子育て家庭などに対して相談援助を行う役割を担うことがあります。

そこで本授業は、保育士として相談援助を行うために必要な知識・技術を習得できるよう、以下の4項目を主な目標として展開していきます。

①保育と相談援助の関係を捉えるとともに、相談援助の意義を理解する。②相談援助に関する知識・技術および相談援助の展開方法を理解する。③相談援助者としての自己のあり方を理解する。④事例検討を通じて相談援助実践を具体的に理解するとともに、利用者理解および援助者としての自己理解を深める。

評価の方法： 中間テストおよび期末レポート(75%)、演習の振り返りシート(10%)、授業への参加度(15%)

テキスト： 使用しません。適宜プリントを配付します。

参考図書： 前田 敏雄 監修『演習・保育と相談援助【第2版】』株式会社みらい
 比嘉 真人 監修『子ども家庭福祉 -子どもたちの求めと社会の役割-』株式会社みらい
 その他、必要に応じて授業内で紹介します。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・生活課題の解決を目指す人の動き ・社会環境の変化と生活課題の解決 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と展開方法、評価方法などに関する説明 ・生活課題とは何か ・生活課題の解決を目指す人の動きと専門職による援助 ・社会環境の変化が生活課題の解決にもたらす影響
2~3	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助(ソーシャルワーク)の考え方 ・保育と相談援助(ソーシャルワーク) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助とソーシャルワーク(ソーシャルワークの種類) ・生活課題の解決における社会福祉固有の視点 ・相談援助の視点(社会福祉援助実践のキーワード) ・保育と相談援助(保育の特性を活かした相談援助とは何か)
4~10	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助(ソーシャルワーク)の機能と方法 	<ul style="list-style-type: none"> ①ケースワーク(個別援助技術) <ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークとは何か(ケースワークの構成要素) ・ケースワークの原則(バイステックの7原則) ・ケースワークの展開過程 ・計画、記録、評価の方法 ・社会資源の活用、関連施設・機関との連携 ②グループワーク(集団援助技術) <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークとは何か(児童福祉施設での実践) ③コミュニティワーク(地域援助技術) <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティワークとは何か(児童福祉施設での実践)
11~13	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助者としての自己のあり方(個人またはグループでの演習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実践における自己覚知、他者理解の重要性 ・自己覚知、他者理解に関する演習
14~15	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討(児童虐待・ひとり親家庭) ・まとめ(相談援助者に求められる要素)

科目名： 児童家庭福祉 (1年次, 講義2単位)
 担当教員氏名： 石山直樹

授業の目標及び概要

保育士は社会福祉の専門職として子どもとその家族の生活を支える役割を担っており、保育所以外にも子ども家庭福祉にかかわるさまざまな施設・機関で活躍しています。そのため、保育士を目指すにあたっては、今日の子どもとその家族がおかれている社会の状況などを理解したうえで、子ども家庭福祉に関する制度・サービスの全体像を的確に把握することが求められます。そこで、本授業は以下の4項目を主な目標として展開していきます。

①子どもとその家族を取り巻く社会環境の現状を理解する。②時代の移り変わりとともに変化している子どもと家族が抱える生活問題を理解する。③子ども家庭福祉にかかわる社会福祉制度・サービスの現状と課題を理解する。④子どもが持つ権利ならびに今日の社会における子ども家庭福祉の意義を捉える。

評価の方法： 中間テストおよび期末レポート (85%)、授業への参加度 (15%)

テキスト： 星野政明・石村由利子・伊藤利明 編『全訂 子どもの福祉と子育て家庭支援』株式会社みらい

参考図書： 保育福祉小六法編集委員会『保育福祉小六法 (2016年度版)』株式会社みらい
 その他、必要に応じて授業内で紹介します。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	オリエンテーション 子ども家庭福祉の理念	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と展開方法、評価方法などに関する説明 ・子ども家庭福祉の理念、子どものもつ権利について
2~3	子どもとその家族を取り巻く社会環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとその家族を取り巻く社会環境の変化とその背景 ・子どもとその家族のライフスタイルの変化
4	子ども家庭福祉の歴史の変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・日本および諸外国における子ども家庭福祉の歴史
5~6	子ども家庭福祉の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭福祉に関する法制度 ・子ども家庭福祉にかかわる社会福祉施設・機関 ・子ども家庭福祉にかかわる専門職者
7~14	子ども家庭福祉の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ①子育て支援と保育サービス ②子どもへの虐待問題に関する対応策 ③社会的養護を必要とする子どもへのサービス ④非行傾向にある子ども・情緒障がいをもつ子どもへのサービス ⑤障がいをもつ子どもとその家族へのサービス ⑥配偶者からの暴力 (DV) に関する対応策 (女性福祉含む) ⑦ひとり親家庭へのサービス ⑧母子保健・子どもの健全育成に関するサービス
15	次世代育成支援と子ども家庭福祉の将来展望 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策、次世代育成支援対策について ・諸外国の子ども家庭福祉の動向について ・これからの子ども家庭福祉に求められるものとは何か

科目名： 家庭支援論（2年次、講義2単位）

担当教員氏名： スティーヴン・トムソン

授業の目標及び概要

2002年度からこの家庭支援論は保育士養成課程の必修科目となった。その理由は、家族の子育て機能や能力の低下に伴い、保育士による家族支援が期待されるようになったからである。保育士はソーシャルワーカーやカウンセラーではないが、今後は子どもの保育だけでなく、時にはその親や家庭を支援することが必要となる。この授業を通して学生は、家庭支援の意味と目的、家族発達の視点、家庭支援の枠組み、ケース（実例）における家庭支援を理解する。

評価の方法： 授業への参加度（20%）、課題（40%）、試験（40%）

テキスト： 松村和子、澤江幸則、神谷哲司（編著）『保育の場で出会う家庭支援論—家族の発達に目を向けて』 Kenpakusha

参考図書： 授業中で紹介する

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	授業のオリエンテーション	・ 授業内容・評価方法の説明、家族とは何か
2～3	家庭生活を取り巻く社会的状況	・ 家庭を取り巻く現状（核家族化、都市化、若者の意識など）、現代家族の特徴（「夫婦家族制」モデル、個人化など）
4～5	家族発達の視点	・ 家族発達の考え方、家族の発達過程、家族発達と家族危機（ストレス）
6	家庭支援の枠組み	・ 家庭支援の枠組み・流れ
7～10	家庭支援のケース（事例）	・ 育児不安のケース、障害児を育てている家庭のケース、児童養護施設における家庭支援のケースなど
11～12	虐待と家庭支援	・ 児童虐待の早期発見、虐待に対する家庭支援
13～14	その他の家庭問題	・ 夫婦間暴力、離婚を経験する家庭
15	授業総括	・ 家庭支援の意味と役割

科目名： 社会的養護（1年次、講義2単位）

担当教員氏名： スティーヴン・トムソン

授業の目標及び概要

現代社会では、親や家庭環境の問題により家族と生活していない子どもたちがいる。これらの子どもたちは施設養護や里親養護などの社会的養護を受けている。現在このような子どもは増加しており、その背景には、核家族の増加、共働き家庭の増加、親の子育て責任意識の希薄化、子どもの虐待などがある。この授業を通して学生は、社会的養護の意味と必要性、社会的養護の歴史、社会的養護の制度や仕組み、児童養護施設における支援内容を理解する。

評価の方法： 授業への参加度（20%）、試験①（40%）、試験②（40%）

テキスト： 櫻井 奈津子（編）「社会的養護の原理：子どもと社会の未来を拓く」青踏社

参考図書： 授業中に紹介する

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	授業のオリエンテーション	・ 授業内容、授業展開、評価方法の説明。 今日の子ども、家庭、社会の状況など
2	社会的養護の意味・必要性	・ 児童養護とは、社会的養護と家庭養護、子どもの養護問題の現状、子ども虐待
3～4	社会的養護の歴史	・ 明治・大正時代の公的施策、民間慈善事業（岡山孤児院など）、前後直後の社会的養護（戦災孤児の出現、児童福祉法の制定など）、高度経済成長期・近代の社会的養護
5～8	社会的養護の制度・仕組み	・ 施設養護と家庭養護、児童相談所、施設養護の特徴とスタイル、家庭的養護（里親の分類）、など
10～15	児童養護施設における養護内容	・ 施設養護の原理、援助方法（日常生活場面での支援、学習支援、親子調整、地域とのかかわり、活動・お祝いの企画、自立支援、リビングケアなど）

(2016年度後期)

科 目 名： 社会的養護内容（2年次、演習1単位）

担当教員氏名： スティーヴン・トムソン

授業の目標及び概要

社会的養護の授業では、社会的養護の体制、施設養護、家庭的養護などを入門的に取り上げた。この授業では、社会的養護の内容を更に深く考えることが目的である。社会的養護を受けている子どもは安全でニーズを満たす生活環境で養育されることが基本的な権利である。この実現に向けて現場の保育士（児童指導員）は子どもや保護者の観点（立場）を考えた支援を展開することが必要である。この授業を通して学生は、子どもや保護者の観点（立場）、施設における養護・個別支援、社会的養護の課題、現場で活躍する保育士（児童指導員）の役割と倫理を理解する。

評価の方法： 授業への参加度（20%）、課題①（40%）、課題②（40%）

テキスト： 授業でプリントなどを配布する

参考図書： 櫻井 奈津子（編）「社会的養護の原理：子どもと社会の未来を拓く」青踏社

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	授業のオリエンテーション	・ 授業内容、授業展開、評価方法の説明。 社会的養護の体制（復習）
2～3	養護問題・養護相談（児童相談所）	・ 子どもや親が抱える養護問題、一時保護など
4～5	インテーク（施設養護）	・ インテーク（子どもの受け入れ）、子どもの養護方針、子どもの喪失感など
6～9	インケア（施設養護）	・ 日常生活における支援、家族関係、子どもの教育、子どもの自立支援、施設内暴力、子どもの権利擁護など
10～11	リービングケア、アフターケア（施設養護）	・ 退所に向けての支援、自立援助ホーム、退所後の支援
12～13	家庭的養護：里親、養子縁組	・ 里親委託、養子縁組（特別養子縁組など）
14	施設職員（保育士など）の役割・倫理	・ 信頼関係（愛着関係）の構築、施設養護の倫理
15	授業内容の総括	・ 授業内容の総括

科目名 : 子どもの保健 I (1年次、講義4単位)

担当教員氏名 : 甲斐純夫、鏑木陽一

授業の目標および概要

子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義を理解し、胎児期より青年期に至るまでの身体発育、運動機能、精神機能の発達について知識を習得します。また子どもによく見られる疾病の病態とその予防法および適切な対応について理解します。さらに子どもの精神保健とその課題、保育における環境・衛生ならびに安全管理について理解を深めます。

評価の方法 : 筆記試験成績 (80%)、授業への参加度 (20%) により評価

テキスト : 毎回の授業でプリントを配布。

参考図書 : 遠藤郁夫・曾根眞理枝・三宅捷太 編書 「子どもの保健 I」 学建書院

授業展開予定

展開区分	項目	内容
【前期】		
1	子どもの保健とは	子どもの保健の意義、胎児期から青年期にかけて各時期の特徴
2	子どもの保健統計	人口、出生、死亡などの人口動態の推移
3	子育て支援と地域保健	地域の保健活動と地域連携、乳児健診
4	成長と発育	身体発育の現状、発育の過程、成長に影響を及ぼす因子
5~6	生理機能の発達 I、II	体温、呼吸、循環、消化、血液免疫系の発達
7~8	精神・運動機能の発達 I、II	原子反射、運動発達、言語発達、社会性の獲得、発達検査
9	栄養	小児栄養の意義、母乳、人工栄養、離乳、幼児の栄養
10	口と歯の健康	虫歯の予防、摂食機能の発達、口腔内の病気
11	子どもに多い症状	発熱、咳、嘔吐、下痢、発疹などの症状とその対応
12~13	感染症 I、II	ウイルス感染症、細菌感染症、その他の感染症
14	感染対策と環境整備	感染経路の理解、流行防止のための環境整備、登園禁止
15	前期のまとめ	

【後期】		
16	アレルギー疾患と免疫	自然免疫と獲得免疫、アレルギー疾患、エピペンの使用法
17～18	予防接種Ⅰ、Ⅱ	予防接種の意義、定期接種と任意接種
19	新生児	新生児の特徴、新生児期の病気、乳児突然死症候群の理解
20	先天異常	遺伝子、染色体異常による病気、胎内感染など
21	呼吸器・循環器	呼吸器系、循環器系の病気
22	消化器・泌尿器	消化器系、腎臓・泌尿器・生殖器系の病気
23	神経・筋・運動器	神経系の病気、てんかん、熱性けいれんの正しい理解
24	血液・内分泌	血液・悪性腫瘍、内分泌系の病気
25	皮膚・耳・眼	皮膚・耳・眼の病気と対処法
26	事故、安全対策	保育環境での事故とその予防、救急処置、救命の連鎖と蘇生法
27	心の健康	心の健康支援、母子相互作用、「遊び」と心の発達、子どもの権利条約
28	心の病気とかかわり方	発達障害の理解とその対応
29	児童虐待	児童虐待の現状、子どもに及ぼす影響とその防止
30	後期のまとめ	

科 目 名： 子どもの保健Ⅱ (2年次, 演習1単位)
 担当教員氏名： 渡 邊 悦 子

授業の目標及び概要

「講義のねらい」
 子どもの保健Ⅰで習得した知識を基礎とし、保育の場において実践できる知識・技術の応用的能力を養う。

「実習目標」
 小児各期における発育、発達に応じた適切な保育、養護の知識と技術を習得する。子どもの日常生活援助・生活環境を理解し、異常の早期発見、病気の予防、けがの対処、救急処置が実践できる知識と技術を習得する。

評価の方法： 授業態度・演習への取り組みを評価する (60%)、課題レポート・小テスト (40%)

テキスト： 高内正子 他『子どもの保健演習ガイド』建帛社
 吉田一心、伊東和雄『こどもの事故と応急手当』有限会社マスターワークス

参考図書： 講義の中で紹介する。

その他： 毎回の講義終了後に「子どもの保健Ⅱ 個人カード」を提出する。

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	ガイダンス	小児保健実習の意義・学習内容の説明及び学び方 保育者の健康管理 (検便・予防接種等の理解)
2~3	母子健康管理	妊娠の成り立ち 性感染症の理解 妊娠一出産一育児 ・妊婦の健康状態、胎児の発育、分娩と産後の母体の経過 ・新生児と乳児の心と体の発達、母子健康手帳 ・父親の育児参加
4~6	乳児の養護	乳児の抱き方・背負い方・食事の世話・排泄の世話 (おむつ交換)・ 衣服の着脱・身体計測・観察・はみがき
7~8	実習Ⅰ	抱き方・背負い方・ミルクの飲ませ方
9~10	実習Ⅱ	沐浴・おむつ交換・着替え
11	実習での学び	子どものけがの現状、野外活動における注意、事故防止
12~13	実習Ⅲ	心肺蘇生法の実際・気道内異物除去・AEDの使い方
14	保育の中の保健指導	保健指導案の作成
15~17	医療トピックス	医療保育、乳幼児突然死症候群等
18~21	健康問題を持つ子どもの アプローチの視点	保育者の視点及び対処法
22~23	実習Ⅳ	タッチケア
24	子どもの死	保育者としての対応、死生観
25~26	実習Ⅴ	三角布の使い方、包帯法、止血法
27	感染症への対応	感染対策
28~29	保健指導	保健指導
30	まとめ	保育者としての生涯学習の意義・まとめ

科 目 名： 子どもの保健Ⅲ (2年次, 演習1単位)

担当教員氏名： 渡 邊 悦 子

授業の目標及び概要

我が国の児童福祉施設を理解し、慢性疾患・発達障がいなど心身のハンディキャップをもつ小児の病態を理解する。そしてそれらの小児に対する我が国の保健対策や福祉について理解を深めるとともに保育者の役割、姿勢・態度について学習する。

評価の方法： 授業への取り組み・態度 (30%) とレポートの成績 (70%) により評価

テキスト： なし

参考図書： 宇佐川 浩 編、『新版 小児保健Ⅱ・障害児の理解と発達支援』

その他： 少人数の場合、受講者の希望により、一部内容を変更することあり

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	授業の進め方 我が国の母子保健事業の理解	育成医療、慢性特定疾患対策、障がい者支援法 小児の健康と保育、障がいの捉え方とその変遷
2	施設・保育における健康管理	保健管理の基本的問題 施設・保育における環境の調整
3	施設・保育における食教育 施設・保育における事故と 安全教育	児童福祉施設の給食、子どもの食育 一般的管理事項 医療的ケア
4	障がいの種類	障がいの種類と特性
5	児童福祉施設等の実態と その保育	各児童福祉施設についての理解
6	乳児保育施設	
7	保育所	
8	児童発達支援事業	
9	障害児入所施設	
10	児童発達支援センター	
11	病院での保育	健康問題を持つ子どもへの視点
12	感染症の種類	学校保健安全法、感染症新法、予防接種
13	感染症の予防と対策	
14	障がい児保育における 保育者の役割	学びをレポートにまとめる
15	まとめ	

科 目 名： 子どもの食と栄養 I A (1年次, 演習1単位)

担当教員氏名： 曾根 眞理 枝

授業の目標及び概要

子どもの発育と栄養の特徴について理解を深め、それを支える食生活に必要な基礎栄養学を学ぶ。日ごろ何気なく食べている食事を栄養学と関連づけて見直し確認していく中で、保育者として、子どもと自分自身のための望ましい食生活を実践する力を習得する。

評価の方法： 学期末試験（80%）、授業への参加度（20%）

テキスト： 飯塚美和子他編集 『最新子どもの食と栄養』 学建書院

参考図書： 小川雄二編著 『子どもの食と栄養演習』 建帛社

授 業 展 開 予 定

展開区分	項目	内 容
1	子どもの心身の健康と食生活	生涯にわたる心身の健康と食生活との関連を理解する。
2	子どもの食生活の現状と課題	発育・発達の特徴、食生活の課題について学ぶ。
3	栄養素の概要と炭水化物	五大栄養素の概要と炭水化物の種類と役割について学ぶ。
4	脂質	脂質の種類と生理作用について学ぶ。
5	たんぱく質	たんぱく質の役割及び性質と食品との関係について学ぶ。
6	多量ミネラル	多量ミネラルの種類と特徴、生理作用について学ぶ。
7	微量ミネラル	微量ミネラルの種類と特徴、生理作用について学ぶ。
8	脂溶性ビタミン	4種類の脂溶性ビタミンの機能について学ぶ。
9	水溶性ビタミン	主な水溶性ビタミンの機能について学ぶ。
10	消化吸收	各栄養素の消化の過程を理解する。
11	栄養素の代謝	糖質・脂肪・たんぱく質の代謝について学ぶ。
12	熱量素の相互関係	熱量素の相互関係 代謝の異常と生活習慣病について学ぶ。
13	水分と電解質の代謝 エネルギー代謝	水分と電解質の役割及びエネルギー代謝について学ぶ。
14	栄養と食生活	望ましい食事のあり方を、演習を通して理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容を確認し、定着化を図る。
	筆記試験	

科 目 名： 子どもの食と栄養 I B (2年次, 演習1単位)

担当教員氏名： 曾根 真理枝

授業の目標及び概要

「子どもの食と栄養 I A」で学んだ内容をふまえて、胎児期の栄養として妊娠期間の望ましい食生活のあり方、出生後の栄養法として最適な母乳栄養、人工栄養、それに続く離乳栄養について学ぶ。乳児期の食生活に関して、次第に変化していく栄養法を講義と演習の両面から理解し、保育者に求められる食に関する知識と技術を習得する。

評価の方法： 学期末試験（80%）、授業内レポート（10%）、授業への参加度（10%）

テキスト： 飯塚美和子他編集 『最新子どもの食と栄養』学建書院

参考図書： 小川雄二編著 『子どもの食と栄養演習』建帛社

授 業 展 開 予 定

展開 区分	項 目	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方 演習の意義と準備を確認する。
2	望ましい食生活のために	「食事バランスガイド」を用いて、自身の現在の食生活を検討し、改善の有無と内容を知る。
3	妊娠・授乳期の食生活	母体の変化・胎児の発育と正常な妊娠のため食生活について学ぶ。
4	妊娠・授乳期の食生活	妊娠の異常と食生活、母乳分泌のための食生活について学ぶ。
5	母乳栄養（1）	母乳栄養の意義を理解する。
6	母乳栄養（2）	母乳栄養の留意点を知り、母乳育児の実際を理解する。
7	人工栄養	人工栄養の基本と実際・混合栄養について理解する。
8	調乳	調乳の基本操作を習得し 冷凍母乳の実際を学ぶ。
9	離乳期の栄養（1）	離乳の必要性和離乳食の進め方の基本について学ぶ。
10	離乳期の栄養（2）	離乳期における食品の選択と留意点について学ぶ。
11	離乳食（1）	離乳栄養の実際（5,6か月頃）について、演習を通して理解する。
12	離乳食（2）	離乳栄養の実際（7,8か月頃）とベビーフードについて、演習を通して理解する
13	離乳食（3）	離乳栄養の実際（12～18か月頃）について、演習を通して理解する。
14	授乳・離乳の支援	保育者として、子どもと保護者への望ましい授乳・離乳支援のあり方を学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容を確認し、定着化を図る。
	筆記試験	

科目名： 子どもの食と栄養Ⅱ (2年次, 演習1単位)

担当教員氏名： 曾根真理枝

授業の目標及び概要

幼児期、学童・思春期の子どもの心身の特徴と食生活、児童福祉施設の給食の意義と特性、食育の基本と内容、症状別の食事、障がいのある子どもの栄養と食生活について学ぶ。子どもの食における様々な問題の改善や、多様化する育児支援のニーズに食の視点から適切に対応できる実践力を、理論と実践を通して養っていく。

評価の方法： 学期末試験(80%)、授業への参加度(20%)

テキスト： 飯塚美和子他編集 『最新子どもの食と栄養』学建書院

参考図書： 小川雄二編著 『子どもの食と栄養演習』建帛社

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	食べる機能・消化機能の発達	消化器官の発達に合わせた食事のあり方について学ぶ。
2	幼児期の栄養と食生活 1	幼児期の心身の成長と食生活の特徴を学ぶ。
3	幼児期の栄養と食生活 2	幼児の間食の意義を理解し、食生活における問題と対応について学ぶ。
4	幼児期栄養の実際 1	1～2歳児の食事の実際について、演習を通して理解する。
5	幼児期栄養の実際 2	3～5歳児の食事の実際について、演習を通して理解する。
6	幼児期栄養の実際 3	子どもの望ましい間食について、演習を通して理解する。
7	学童・思春期の栄養と食生活	学童・思春期の栄養的特徴と食生活の問題について学ぶ。
8	家庭と児童福祉施設における食生活	家庭の食事、各児童福祉施設給食の役割と特性について学ぶ。
9	食育の基本と内容	保育における食育推進の意義と実践方法について学ぶ。
10	特別な配慮を要する子どもの食生活 1	乳幼児に多くみられる症状に関して、食事の対応法を学ぶ。
11	特別な配慮を要する子どもの食生活 2	食物アレルギーについて、基礎的事項を理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食生活 3	保育における食物アレルギー児への対応の要点を学ぶ。
13	特別な配慮を要する子どもの食生活 4	食物アレルギーや症状別の栄養法について、演習を通して理解する。
14	特別な配慮を要する子どもの食生活 5	障がいのある子どもの食生活と適切な対応法を学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容を確認し、定着化を図る。
	筆記試験	

科目名： 乳児保育 (1年次、演習2単位)

担当教員氏名： 佐野真弓

授業の目標および概要

人は人との関わりの中で人として育っていきます。子どもに関わる大人は、乳児期の発達の特徴を理解し、愛情を持って育てていく事が望まれます。

本講義では、講義と演習、実習を通し、3歳未満児の発達や乳児保育における基礎を学び、豊かな心根と知識を持った望ましい保育者のあり方を学びます。

評価の方法： 授業態度・参加度等 (15%)、提出物等 (15%)、期末テスト等 (70%)

テキスト： 松本園子 編 「乳児の生活と保育」 ななみ書房

保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	ガイダンス	・授業内容、評価の方法、授業の進め方等乳児保育を学ぶに当たって必要なことを学びます
2～3	乳児保育の基本的考え方	・「乳児保育とはなにか」について、法的根拠、乳児保育がおこなわれている場所、乳児保育の内容、乳児保育の歩み・歴史等を通し学びます ・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通し、乳児保育の意義を学びます
4～5	乳児保育の一日	・乳児保育がおこなわれている場所について学びます 保育園の一日 乳児院の一日 家庭的保育の一日
6～9	乳児の発達と保育内容	・生命の誕生 ・6か月未満 (0～3か月の発達と保育・4か月～6か月未満の発達と保育) ・6か月～1歳3か月未満 (6か月～9か月の発達と保育・9か月～1歳3か月未満の発達と保育) ・1歳3か月～2歳未満 (1歳3か月～2歳未満の発達と保育) ・2歳 (2歳の発達と保育)
10～15	基本的生活習慣と保育	・乳児の食事・排泄・睡眠など基本的生活習慣獲得と保育について学びます ・調乳・授乳・オムツ交換・着替えを人形を使って実習します
16～18	身体機能の発達と保育	・運動機能の発達と保育の役割、そのための環境づくりについて学びます
19	乳児の健康と安全	・健康な生活、感染症、皮膚疾患、その他の疾患について学びます 危機管理、安全・安心の環境について学びます
20～22	対人関係の発達と保育	・周りの大人との応答的なかかわりのなかで、人として生きる生活を始めることを学びます (ことばで人とつながる 人とかかわる)

23～25	乳児保育と保育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程・計画について 乳児の計画の特性について学びます 指導計画、デイリープログラムを作成します
26～27	乳児の養育環境と乳児保育の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭の役割と状況、地域の変貌、児童虐待問題、少子化など、今子どもを取り巻く環境について学びます
28	白峰保育園 見学	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の環境について、保育所の見学を通して学びます
29～30	復習とまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学びを、演習、グループ討議等を通し再確認します

科目名： 教育心理学 (2年次, 演習1単位)
 担当教員氏名： 佐藤寛之

授業の目標及び概要

本演習では、まず、教育心理学の果たす役割、意義について学びます。そして、心理学が人間のもつ特性を研究するために導入・開発してきた研究方法が保育・教育の分野においてどのような問題の探究に役立つのかを学びます。具体的には、観察法、実験法、検査法等の研究手法、診断法、評価法についての学習をつうじて、保育・教育にかんする実践・研究をおこなう上で必要と思われる心理学的な諸概念を理解し、保育・教育の実践に役立てられる知識・技能の基礎を形成します。原則、アクティブ・ラーニングの形式で学習に取り組みます。

評価の方法： レポート試験 (67%)、授業への参加度 (33%)

テキスト： 藤土圭三 監修『心理学からみた教育の世界』北大路書房

参考図書： 授業の中で紹介する。別途説明用資料を授業内で配布。

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	教育心理学とは	教育心理学の歴史について学ぶ 教育と心理学の関係について理解する 心理学の保育・教育への貢献の仕方を理解する 心理学的概念と研究法の役割を理解する
2	現象理解の基礎	観察法：探索的研究と自然的観察について学ぶ 実験法（仮説の検証）：確証的研究と実験的観察について学ぶ 参与観察の有用性を理解する
3~4	構成概念と測定	心理学的構成概念と測定指標との関係について理解する シアーズの攻撃性にかんする実験結果のもつ意味を理解する 知能とコンピテンス概念の関係を理解する 学習の諸理論を学ぶ
5	適性処遇交互作用	A T I：処遇と個人差の組み合わせがもたらす差異を理解する スノウラの実験、サロモンの適性交互作用モデルについて学ぶ
6~8	知能概念の再考	知能とは何かを学ぶ 検査法；標準検査とその他の検査法について学ぶ 知能と創造性と学力の関係について理解する 知能への環境要因の影響；保育所、幼稚園通園と知能発達—早期教育の可否について学ぶ 実際の知能、ガードナーの多重知能理論を理解する
9~11	欲求・動機づけと適応	欲求の諸理論、適応とは何か—欲求不満と欲求耐性、葛藤、適応機制について学ぶ 期待効果—ピグマリオン効果、社会的現実の構築について学ぶ 帰属理論と動機づけ—学習性無力感と自己効力感について学ぶ 自尊心の維持、高揚と社会的比較過程及び自己提示について学ぶ
12~14	カウンセリング・マインドとその効用	カウンセリング・マインドとは何かを学ぶ 純粋性（自己一致）、完全受容、共感的理解について理解する カウンセリング・マインドの教育心理学における効用について学ぶ 望まれる保育者、教育者の特徴について理解する
15	評価	教育評価とは；評価法と診断について学ぶ

科 目 名： 発達心理学 I (1年次, 講義 2単位)
 担当教員氏名： 佐藤 寛之

授業の目標及び概要

保育実践に関する心理学の知識を習得する。子どもの発達に関する心理学の基礎を習得し、生涯発達の考え方、初期経験の重要性を理解する。社会的な相互作用と発達の関係性を具体的に理解し、さらに、遊びと、発達・学習過程との関係性も理解する。

評価の方法： レポート試験 (67%)、授業への参加度 (33%)

テキスト： 新井邦二郎 編著『図でわかる発達心理学』福村出版

参考図書： 講義の中で紹介する。別途説明用資料を授業内で配布。

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1～2	発達とは	発達の定義とその規定因；発達への遺伝と環境の影響を理解する 発達段階、発達の特質について理解する 生涯発達の考え方を理解する
3～4	発達課題	発達段階とは；ハヴィガーストの発達段階の考え方、エリクソンの心理・社会性の漸成的発達論について学ぶ 人間関係の発達に関するルイスの社会的ネットワーク理論について学ぶ
5～6	愛着と親子関係の発達	乳児の視覚、乳児の対人知覚—微笑反応、相貌的知覚について学ぶ 愛着と依存、愛着の形成、母子相互作用、愛着の発達を学ぶ 初期経験の効果；発達初期の重要性について理解する
7～10	知的機能と遊びの発達	馴化と脱馴化、思考の発達、記憶の発達、知的発達と好奇心の関係性を学ぶ 思考・知能の発達の变化について学ぶ 記憶の発達、表象能力の発達、論理的思考の発達、視点取得能力の発達、社会的な認知的葛藤、認知スタイルの発達について学ぶ 遊びの理論、遊びの特性、遊びの展開、社会的参加度と遊びの発達、興味の変化による遊びの発達を学ぶ
11～12	言語の発達	言語獲得理論について学ぶ 喃語、初語、一語発話・二語発話、三項関係、内言・外言、自己中心語、語彙数の発達の变化、メタ言語的能力の発達について学ぶ
13	自己概念の発達	自他の分化、名前の認識、性同一性、自尊心、社会的自己の発達、第一反抗期と第二反抗期、現実自己と理想自己、自我同一性について学ぶ
14	社会性の発達	乳児期の対人関係、幼児期の対人関係、児童期の対人関係、友人関係の発達、親子関係とコミュニケーション、社会的技能の発達について学ぶ
15	道徳性の発達 障害児の心理特性	結果論から動機論へ、道徳行動の認知的発達段階、道徳行動と観察学習、向社会性の発達、共感と思いやりの発達について学ぶ 様々な障害と障害をもつ子どもの心理特性について学ぶ

科 目 名：教育相談（2年次 講義2単位）

担当教員氏名：小林聡子

授業の目標及び概要

子どもの保育の専門性を有する保育士として、その専門的立場から乳幼児期でおこるさまざまな問題や課題に対して、子どもおよび保護者の気持ちを受け止めながら、適切な支援をするために必要な知識やスキル、心構えを習得する。

評価の方法： 筆記試験（50%）、授業・演習への取り組み（50%）

テキスト： プリントにより授業を行う。

参考図書： 必要に応じて、授業内で紹介する。

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	教育相談とは	子どもと保護者への支援のために保育者に求められることを考える
2～3	カウンセリング態度の 基礎および技法について	教育相談を行うにあたり、参考となりうるカウンセリングにおける基本的 態度、技法について学ぶ
4～8	人間理解のための 臨床心理学理論	精神力動的アプローチ、行動論的アプローチ、人間性心理学的アプローチ、 また精神疾患や精神障害、発達障害やグリーフケアについての基本的な知 識を学ぶ
9～13	保護者対応について	さまざまな状況を想定した事例を取り上げ、ロールプレイを行いながら 話し合い、理解を深める。また、連絡帳の書き方についても学ぶ。
14	自己理解とアサーション トレーニング	自己表現の特徴を理解した上で、自分も相手も大切にしたい自己表現 【アサーション】について学ぶ
15	まとめ	まとめ

授業の目標及び概要

児童文化について学ぶことは、子どもの生活と遊びを理解し、保育をより豊かに展開することにつながります。この授業では、児童文化についての概観を学びます。保育の場での絵本や玩具など児童文化財についての理解を深め、保育実践に活かすことを目標とします。子どもにむけてのお話し(素話)について学び、自作のお話しを発表し合いながら、素話の実践力を身に付けていくことを目指します。

評価の方法 : 出席・授業への参加度 (50%)、レポート等 (50%)

テキスト : 『演習 児童文化』 小川清実 著

参考図書 : 『このほんよんで! 第2版』 調布市立図書館

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
2	児童文化とは何か	「児童文化」の概念について考える。
3	子どもの遊びと児童文化	子どもの遊びの変遷について概観を学ぶ。
4	絵本の与え方	子どもにとって絵本の意味について考える。
5	絵本とは何か	絵本の構造を学ぶ。
6	赤ちゃん絵本について学ぶ	0, 1, 2歳児向けの絵本について学ぶ。
7	保育現場での絵本・物語①	保育の場での絵本や物語の活用について学ぶ。
8	保育現場での絵本の展開②	絵本の読み聞かせの実践について学ぶ。
9	保育における玩具について学ぶ	子どもにとっての玩具の意味。保育場面での玩具の活用について学ぶ。
10	昔話、昔話絵本について学ぶ	昔話とは何か、昔話の構造や特徴、昔話絵本について学ぶ。
11	保育現場でのお話の展開①	素話とは何か、保育場面での素話の活用について学ぶ
12～	保育現場でのお話の展開②	素話を作り発表する
13	子どもと伝承遊び	伝承あそびの種類や魅力について学ぶ。
14	保育と年中行事	年中行事について学び、子どもの生活とのかかわりについて考える。
15	まとめ	

科目名： 保育・教職実践演習（幼稚園）（2年次，演習2単位）
 担当教員氏名： 佐藤寛之・本田幸・細野美幸

授業の目標及び概要

幼稚園教諭、保育士になるために必要な実践力に関して、「幼児教育・保育者の役割、職務内容、責任、使命感、教育的愛情」「社会性、対人関係能力」「幼児理解、クラス経営」「教科、保育内容の指導力」の観点から、各自の修得状況を総合的に自己分析・診断し、実習も含めた学習を通して各自が身につけた知識、技能等を基盤にしつつ、グループ討議、「協同的活動・遊び」をテーマとしたグループ活動、及び指導計画案の作成等を通じて、それらを深化させ、その能力的統合を図ることで保育・教職実践に必要なコンピテンシーを高める。

（※当演習は、学内の教科、保育内容等の専門領域の教員の協力を得ておこなう回がある関係で、授業時間の変更が発生する場合があるので留意すること。）

評価の方法： 授業への参加度と、各授業のグループ討議のまとめ等として作成したレポートの内容及びグループ活動を通じて発揮される、保育・幼児教育者としての実践力、成長を育む潜在力の変化にもとづいて、各履修者の本科目の目標の達成度を評価する。

テキスト： 財団法人幼少年教育研究所編著『新版 遊びの指導（乳・幼児編）』同文書院
 授業内容に応じて必要な教材資料を配布、また、授業内で、必要な図書、資料について指示。

参考図書： 授業内で必要な参考書紹介。参考資料については授業内で紹介をおこなう。

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1・2	オリエンテーション 幼児教育者・保育者に求められるもの —信頼され、求められる保育者になるために	本授業の目的と計画を理解する 幼児教育・保育者に求められる基本的なマナー、取り組み、社会性、対人関係能力、幼児理解、クラス経営（クラス経営の位置づけとその意義、重要性）とそのポイントに関する理解をさせ、専門職者としての自己刷新の必要性を理解する 各自、幼児教育者としての実践力、成長を育む潜在力について自己評価等を実施（履修カルテの記入作成。履修カルテ提出者のみ2回目以降の授業の出席ができる）
3～12	教科・保育内容に関する指導・支援の流れ —「協同的活動・遊び」を通じて、活動計画の作成と実践体験を通じて活動の流れを理解する	教科・保育内容等の支援・指導にあたって、「協同的活動・遊び」を題材に、保育内容の5領域（表現（音楽、造形、身体等）、人間関係、言葉、健康、環境）に関する支援・指導技能について学びを深める（教科、保育内容等の専門領域の教員担当）。支援・指導の対象となる子どもの特質の理解と発達水準を考慮した教科・保育内容の展開、留意点、調整方法を具体的に検討することを通じて支援・指導力を強化する 自分たちの考案・実践した協同的活動・遊びの紹介マニュアルを作成する
13・14	子どもへの援助のポイント —子どもの協同的活動・遊びに関する事例研究・実践研究例から援助のポイント、実践的指導計画を組むためのポイントを学ぶ	幼児の協同的活動・遊びに関する事例研究、実践計画・研究に関して、どのような点を押さえて、個別の子ども、クラス、園の子どもたちと関わり、他の保育者と連携していくことが大切か等、既修の学習内容、自分たちが幼児の協同的活動・遊びについて計画し、実践した体験実習体験等とつなぎ合わせて、長期的な見通しを持った実践的支援、保育活動のあり方、ポイントを検討、理解する
15	実践力の総合的再診断 よりよい保育者を目指して —目指すべき幼児教育者・保育者の具体的あり方を再考する	各自、幼児教育者としての実践力、成長を育む潜在力について自己評価を実施（履修カルテの再チェック等）し、幼児教育・保育者としての変化を確認し、幼児教育・保育者の役割、職務内容、子どもの対する責任と愛についても含め、幼児教育者・保育者のあり方についての確かな理解を形成ができていないか再確認し、各自の専門職者としての自覚を深める

§ 5. 教科に関する専門科目

科目名：音楽ⅠA (ML) (1年次, 演習1単位)

担当教員氏名：佐々木 美奈子

授業の目標及び概要

保育の現場に必要な音楽の基礎知識と技術の習得を目標とします。
基本的な楽譜の読み方や伴奏付けの理論を、楽器を使いながら学習します。
また、音楽学習を通して、音に対する感性、音楽活動を楽しむ心を養います。
1クラス前半、後半に分かれて音楽ⅠA (ML) と音楽ⅠB (ピアノ) を45分ずつ交代で授業を行い、各自の習熟度を見ながら進めます。

評価の方法：期末筆記試験 (50%)、実技試験 (20%)、授業参加度 (30%)

テキスト：吉田梓監修『童謡カレンダー Vol.1、2』音楽之友社

山本英子著『ぴあのでのアトリエ 楽典レッスン1、2』共同音楽出版社
プリント

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1～2 3～9	ガイダンス 楽典	・授業内容、進め方 ・導入 ・五線、ト音記号、ヘ音記号 ・音名、＃、♭ ・音符の種類 ・休符の種類 ・拍子記号、リズム ・音程
10～12 13～15	鍵盤和声 まとめ、前期試験	・和音、カデンツ ・前期期末実技、筆記試験
16 17～18 19～24	前期の復習 楽典 鍵盤和声	・8分の6拍子、付点音符 ・三和音 ・主要三和音 ・カデンツ ・三和音のカデンツ ・コードネーム、転回形
23～25	演習	・長調の音階 ・伴奏付け
27 28～30	復習 まとめ、後期試験	・後期期末実技、筆記試験

科目名：音楽ⅡA (ML・合奏) (2年次, 演習1単位)

担当教員氏名：佐々木 美奈子

授業の目標及び概要

音楽ⅠA、ⅠBで学んだことを基に、音楽の基礎知識と技術をより実践的なものに発展させていきます。

コードネームによる伴奏付けを学習し、保育の現場で役立つ童謡、生活のうたのレパートリーを増やします。

また、ピアノ連弾や器楽合奏のアンサンブルを行い、音楽の楽しさ、美しさを味わい、子供たちに伝えられるための感性を養います。

ディズニーなど、学生自身も楽しめるジャンルの楽曲にも取り組みます。

評価の方法：期末筆記試験 (50%)、実技試験 (20%)、授業参加度 (30%)

テキスト：吉田梓監修『童謡カレンダー Vol.1、2』音楽之友社

山本英子著『ぴあなのアトリエ 楽典レッスン1、2』共同音楽出版社
プリント

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1～4	楽典	・長調、短調 ・主要三和音 ・属七の和音
5～9	鍵盤和声 演習	・終止 ・コードネーム ・「おはようのうた」「おかえりのうた」 ・「おべんとう」「おかたづけ」
10～12	復習	
13～15	まとめ、前期試験	・前期期末実技、筆記試験
16	前期の復習	
17～18	楽典	・速度記号、強弱記号 ・移調 ・写譜
19～22	鍵盤和声	・伴奏付け
23～26	演習	・合奏 ・ピアノ連弾
27	復習	
28～30	まとめ、後期試験	・後期期末実技、筆記試験

科 目 名： 音楽IB（ピアノ） （1年次、演習1単位）

担当教員氏名： 篠原万喜子・神戸光子・横森温子・中村みどり・本山望・八谷多郁子・梅原恵子・中村美雪・伊藤佳津代

授業の目標及び概要

ピアノ実技の基礎的な技術の習得を目標とする。
 1週間に1回の個人レッスンを受ける。それぞれの実力に合わせてレベルで指導を受けることができる。
 初心者は、『メトードローズ』（安川加寿子訳編）を1課から行い1年間で6課まで終了しなければならない。
 その他、読譜力や正確なリズム感覚を習得しながら、やさしい童謡の弾き歌いを学ぶ。
 経験者は、ピアノ実技計画表をもとに進める。『メトードローズ』（安川加寿子訳編）の教材は必要に応じて使用する。

評価の方法： 授業態度（20%）、ピアノ実技（80%）

テキスト： 安川加寿子 訳編『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社
 吉田梓 編著『ピアノ・レッスン』エー・ティー・エヌ
 吉田梓 監修『子どもとたのしむ童謡カレンダー Vol.1・Vol.2』音楽之友社

参考図書：

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
標 準 前 期	『メトードローズ・ピアノ教則本』 『童謡カレンダー』	1課～4課 ちょうちょう (春) Vol.1-6 ぶんぶんぶん (春) Vol.1-7 とんぼのめがね (秋) Vol.1-25 こいのぼり (行事) Vol.1-38 たなばたさま (行事) Vol.1-44 大きな栗の木の下で Vol.2-4 むすんでひらいて Vol.2-5 山の音楽家 Vol.2-13
標 準 後 期 上 級 前 期	『メトードローズ・ピアノ教則本』 『童謡カレンダー』	4課～6課 めだかのがっこう (春) Vol.1-7 かたつむり (夏) Vol.1-13 どんぐりころころ (秋) Vol.1-22 ゆき (冬) Vol.1-30 とけいのうた (行事) Vol.1-41 おもいでアルバム (行事) Vol.1-51 ぞうさん Vol.2-4 アイアイ Vol.2-9 ふしぎなポケット Vol.2-28

展 開 区 分	項 目	内 容
上 級 後 期	マーチ 『ピアノ・レッスン』 『童謡カレンダー』	プリント使用 左記のテキストの中から数曲 ことりのうた (春) Vol. 1- 6 あめふりくまのこ (夏) Vol. 1-10 おつかいありさん (夏) Vol. 1-15 シャボンだま (夏) Vol. 1-18 やきいもグーチーパー (秋) Vol. 1-21 森のくまさん Vol. 2-12 せかいじゅうのこどもたちが Vol. 2-18 大きな古時計 Vol. 2-24 「行事のうた」 すてきなパパ Vol. 1-43 うんどうかい Vol. 1-46・47 「幼児讃美歌」より数曲 Vol. 2-36・37・38・39・40・41

科 目 名： 音楽ⅡB（ピアノ） （2年次、演習1単位）

担当教員氏名： 篠原万喜子・神戸光子・横森温子・中村みどり・本山 望・八谷多郁子・
梅原恵子・中村美雪・伊藤佳津代

授業の目標及び概要

ピアノ実技の応用力を目標に、現場で要求される童謡の弾き歌いを中心に学ぶ。
その他、リズム表現曲として「マーチ」をプリントで、小曲として『ピアノ・レッスン』を使用する。また、
必要に応じて「行事のうた」・「幼児讃美歌」なども含めながら進めていく。

評価の方法： 授業態度（20%）、ピアノ実技（80%）

テキスト： 吉田梓 編著『ピアノ・レッスン』エー・ティー・エヌ
吉田梓 監修『子どもとたのしむ童謡カレンダー Vol.1・Vol.2』音楽之友社

参考図書：

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
標 準 前 期	『マーチ』 『ピアノ・レッスン』 『童謡カレンダー』	プリント使用 左記のテキストの中から数曲 ことりのうた (春) Vol.1-6 あめふりくまのこ (夏) Vol.1-10 おつかいありさん (夏) Vol.1-15 シャボンだま (夏) Vol.1-18 やきいもグーチャーパー (秋) Vol.1-21 森のくまさん Vol.2-12 せかいじゅうのこどもたちが Vol.2-18 大きな古時計 Vol.2-24 「行事のうた」 すてきなパパ Vol.1-43 うんどうかい Vol.1-46・47 「幼児讃美歌」より数曲 Vol.2-36・37・38・39・40・41

展 開 区 分	項 目	内 容
標 準 後 期 上 級 前 期	『ピアノ・レッスン』 『童謡カレンダー』	左記のテキストの中から数曲 おはながわらった (春) Vol.1- 4 おぼけなんてないさ (夏) Vol.1-16 まっかな秋 (秋) Vol.1-24 あわてんぼうのサタケコース (冬) Vol.1-32 おかあさん (行事) Vol.1-39 うれしいひなまつり (行事) Vol.1-48 ドキドキドン！1年生 (行事) Vol.1-49 いちねんせいになったら (行事) Vol.1-50 いぬのおまわりさん Vol.2- 6 おもちゃのチャチャチャ Vol.2-26 「幼児讃美歌」より数曲 Vol.2-36・37・38・39・40・41
上 級 後 期	『ピアノ・レッスン』 『童謡カレンダー』	左記のテキストの中から数曲 アイスcreamの歌 (夏) Vol.1- 8 とんでったバナナ (夏) Vol.1-14 おぼけなんてないさ (夏) Vol.1-16 ちいさい秋みつけた (秋) Vol.1-20 手をつなごう Vol.2-16 山のワルツ Vol.2-32 ニヤニユニョのてんきよほう Vol.2-34 「幼児讃美歌」より数曲 自由に選曲

科目名： 声楽 I (1年次、演習2単位)

担当教員氏名： 横森弘之

授業の目標及び概要

声楽 I では発声の基礎と就職の現場を想定して、幼児教育に必要な童謡及び音感教育を学びます。

また月例集会や学校行事のクリスマス集会に合唱する『ハレルヤコーラス』を習得します。

下記の内容に基づいて授業を行います。

1. 発声練習
2. 童謡カレンダーの課題曲 18 曲
3. 保育ピアノ伴奏大全集
4. 指揮法
5. ハーモニー及びリズムの原理及び実践
6. 歌唱指導法
7. 校歌・ハレルヤコーラス

評価の方法： 実技試験(40%) 筆記試験(40%) 授業への参加度(20%)

テキスト： 童謡カレンダー I・II 保育ピアノ伴奏大全集

ハレルヤコーラス・校歌・讃美歌

年間授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	ガイダンス 保育ピアノ伴奏法	年間計画・発声・歌唱
2～10	童謡カレンダー ハレルヤコーラス 讃美歌集	発声・歌唱・指揮法・アニメソング ハレルヤコーラス 校歌 音感練習
11～15	実技・筆記試験準備	前期のまとめ及び定期試験
16～21	童謡カレンダー ハレルヤコーラス 讃美歌集	発声・歌唱・指揮法・アニメソング ハレルヤコーラス練習 校歌 歌唱指導法の実践
22～27	ハレルヤコーラス	童謡カレンダー クリスマス曲・指揮法・歌唱指導法の実践
28～30	一年間のまとめ	前期・後期のまとめ及び後期定期試験

科目名： 声 楽 II (2年次、演習2単位)
 担当教員氏名： 横 森 弘 之

授業の目標及び概要

1年次の声楽Iの演習をさらに発展させ、幅広い表現をめざし、歌うことの楽しさ、幼児音楽の重要性を認識します。2年次では幼児教育に必要な楽器を習得します。様々な楽器を用いてアンサンブルやマーチングに発展します。又、プリントを用いて様々な子供の歌に対応します。式典歌「ハレルヤ・コーラス」卒業歌「大地讃頌」を学習します。

評価の方法： 授業態度 (10%)、および実技(歌唱)試験 (90%)

テキスト： たのしく打楽器
 『ハレルヤ・コーラス』シンキョウ社・大地讃頌・プリント

参考図書： 『讚美歌』
 吉田梓 監修『童謡カレンダー Vol.1&2』音楽之友社

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	ガイダンス テキスト	・2年次の授業計画
2～5	楽しく打楽器 童謡カレンダー 1&2 讚美歌	・各々のテキストは1年次の基礎をもとに発展させます。 ・歌曲・合唱曲・愛唱歌・幼児讚美歌 ・童謡はテキスト以外からも多数選択し、意欲的に取り組みます。 ・ピアノの奏法を学びます。
6～8	〃	・小太鼓 ・大太鼓 ・授業内試験 (ピアノ・小太鼓)
9～12	〃	・6月の実習に向けて、「弾き歌い」へのアプローチ、および子供の歌の指導法と展開
13～15	前期のまとめ・実技試験	・授業内・歌唱実技試験 (校歌・ハレルヤ・コーラス)
16～19	後期の授業内容 ハレルヤ・コーラス 童謡カレンダー 1&2 讚美歌	・アニメ・童謡等の合奏 ・授業内試験 (保育楽器アンサンブル)
20～23	〃	・それぞれの曲は、教材以外にも求めることもあります。 ・さらに幅広い合唱曲にも取り組みます。 ・子どもの歌の指導法の展開
24～26	クリスマスの歌 卒業式合唱曲	・讚美歌II編からクリスマスの歌を取り上げます。 ・「式典における合唱曲」を認識しての練習を発展させます。
27～30	2年間のまとめ・実技試験	・授業内・歌唱実技試験

科 目 名 : 図画工作 (2年次、演習2単位)

担当教員氏名 : 兼子 真理

授業の目標及び概要

1年次に「表現Ⅱ」で学んだことを基礎に色々な素材の特徴を研究する。また幼児の造形に見られる発達段階を理解し、造形活動の狙いや留意点を学ぶ。具体的にはパネルシアターの制作、小麦粉ねんど作り、パクパク人形、壁面のかざり等を手掛け保育者としての想像力、創造力、感性を高める。

評 価 の 方 法 : 演習への取り組み・提出物(70%) 試験(30%)

テ キ ス ト : 使用しない。プリント配布

参 考 図 書 : 熊本高工 編 『表現の指導 造形』 同文書院

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業に必要な持ち物、道具についての説明。
2	パクパク人形Ⅰ	紙袋を利用し、素材の特徴を考えパクパク人形をつくる。
3~4	パクパク人形Ⅱ	くつ下を利用し、パクパク人形をつくる。(簡単な裁縫)
5	小麦粉ねんど	小麦粉に食紅を入れ着色し、実際にこねて感触を確かめる。
6	絵の具あそび	歯ブラシと金網を使用し、繊細な効果を楽しむ。(スパッタリング) ビー玉に絵の具をつけ、紙の上で転がす。 ビー玉の転がる線からイメージを豊かにする遊び。(ビー玉転がし)
7~8	パネルシアター	パネルシアターの簡単な説明後、各自で制作。 (お話し、歌、自由。ブラックライト使用可)
9	パネルシアター発表	発表後、反省、感想を述べ合う。
10	タブローオブジェ	イメージを育てる造形を学ぶ。(クレヨンを使用し、自由に描く遊び)
11	壁面制作	四つ切り画用紙に季節を表現し、装飾するデザイン、構成を学ぶ。 (グループ活動)
12~15	絵本、紙芝居制作	素材、材料選び、描画方法について理解する。 文字の大きさ、配置、配色について考え工夫する。 造形の視点から絵本、紙芝居の違いを学び、どちらかを制作する。
16	折り紙	基本から応用編が折れるようにする。
17	カード作り	園行事の案内状、招待状をつくる。 見やすさ等、構成の工夫を学ぶ。
18	廃材利用Ⅰ	新聞紙を利用しコサージュをつくる。 (折り方、切り方の工夫で花や星の型がつかれることを学ぶ)
19	廃材利用Ⅱ	身近な廃材を利用し対象年齢を考え、遊べるおもちゃをつくる。

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
20～22	廃材利用Ⅲ	廃材を活かし、お店屋さんごっこを体験する。(グループ活動)
23	スライム	化学反応によりスライムが出来ることを理解する。(実際に作る)
24～25	立体(粘土)	フォルモねんどを使用し、キャンドルスタンドをつくる。 幼児造形で使用される粘土の特徴を学ぶ。
26～27	ペーパークラフト	でんぐりの素材を理解し立体カードを学ぶ。(クリスマスカード、飛び出すカード)
28	乳児の制作	乳児の発達を理解し、実際にシール貼りを体験する。
29	手作り楽器	身近な素材を集め、色々な音を探し、音の出る仕組みを理解し、簡単に出来る楽器を学ぶ。
30	まとめ	造形表現を楽しむ。 つくり出す喜びとは何かを考え、発達段階に合わせた助言、援助の仕方を学ぶ。

科目名：小児体育 (2年次, 演習2単位)
 担当教員氏名：堀内弓子・佐久間博子

授業の目標及び概要

保育者として必要な身体づくり・動きづくりを目標の一つとする。
 二つめは、保育の対象となる子どもの発育発達に必要な基本的な運動の種類やその系統的・段階的発達過程を自らの身体活動を通じて理解し、それを展開するための知識や技術を習得することを目指す。
 実践内容としては、「体操」「リズム運動」「様々な遊具を使った遊び」を取り上げる。実践を通してそれぞれの運動特性、運動遊具の取り扱いの習熟、指導の目標と方法について理解を深める。一方、特に運動発達の視点から保育のねらいである心情、意欲、態度を育てる指導・援助のあり方を考える。

評価の方法： 授業への参加度・学習態度 (50%)、テストによる運動技術や提出物など (50%)

テキスト： 橋本 妙子・堀内 弓子 著『こどもの運動あそび』啓明出版

参考図書： 授業内で随時、紹介する。

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1～11	オリエンテーション 体力測定 集団行動 体操・リズム運動 「美しき躍動」リハーサル運動を通した子どものかかわり方 美しき躍動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場における「こどもの運動」の意義、ねらい、内容、方法について理解する。 ・1年前の測定結果と比較し、今の自分の体力を知る ・集団生活を営む上での秩序を保ち、緊急事態での安全を確保するために、子ども達の集団行動のあり方を学ぶ。(集合あそび、並びっこなど) ・一年次に学んだ徒手体操の基本を確認し、さらに各動作の目的を正確に捉えて体操を行う。 ・リズム運動の指導法を学ぶ。 ・1年生との合同授業では、1年生に教えることで、自らの動きを確認する。 ・だっこ・おんぶ・肩車等を安全に行う方法や運動を通した子どもとの関わり方を学ぶ。 ・集団で演技することの楽しさ、身体で表現する喜びを共有する。 ・日ごろの授業での成果を発表し、子どもの反応を観察する。 ・実際に子どもと1対1でかかわり、発育発達の状況や個人差を学ぶ。
12～15	リズム・身体表現活動 基本的運動について(1) 固定遊具(鉄棒・肋木)を使って	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して子どものための「リズム・表現活動作品」を学び、自らの表現力を高めるとともに、子どもたちへの指導法を学ぶ。 ・「ぶらさがる、つっぱり」といった基本的な運動を鉄棒・肋木を使い、指導法を学ぶ。 ① 固定遊具での遊びにおける安全指導(日常の管理、点検など)について学ぶ。 ② 自らも課題(逆上がり、前回り降り)に取り組むことで、達成感をもてる援助や補助の仕方を学ぶ。

展 開 区 分	項 目	内 容
16～18	基本的運動について(2) 小型遊具(ボール・フープ 縄)を使って	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの遊具の特性を理解し、子どもの多様な動きを引き出す方法を学ぶ。
19～22	運動会リハーサル 運動会本番	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の流れを理解する ・運動を通して、異学年や教職員とかかわる楽しさを味わう。
23～24	基本的運動について(3) 大型遊具(巧技台、マット、 跳び箱)を使って	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳から6歳までの子どもの基本的運動の発育発達を促す環境を設定する。 ・設定内容をグループごとに発表し、「基本的運動の発達を促す設定になっているか」「安全への配慮はどうか」「遊具の特性を多角的に引き出しているか」などの点から、他グループの評価を受け、反省の材料とする。
25～26	基本的運動について(4) ボールを使って	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを「打つ」「つく」といった運動を使った遊びをやわらかいボールで、簡単なゲームを楽しむ
27～29	旗体操・組立体操	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の表現でつくった旗を使って、身体表現を楽しむ。 ・組立体操を創作して、発表する。
30	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習したすべての「リズム・表現活動作品」の復習とまとめを行う。

科目名 : 生活と言語表現

(1年次, 演習1単位)

担当教員氏名 : 本田 幸

授業の目標及び概要

子どもの生活を豊かにし、生きる力を育むために必要とされる基礎的な事項の理解と保育実践について学ぶ。授業の主なテーマは、子どもと自然との関わり、規範意識・道徳性の芽生え、子どもの言葉の育ちと保育者のかかわりについてである。規範意識・道徳性の芽生えについてはテキストの事例をもとに学習を進める。子どもが他者との関わりを通して規範意識や道徳性の芽生えの基礎を培っていく過程について理解する。

授業の中で、子どもの生活とかかわりの深い事項について、学生自らがテーマを選び学習したことを発表し合う、演習活動を取り入れていく。

評価の方法 : 授業への参加度・(50%)、 レポート等 (50%)

テキスト : 文部科学省 『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』

参考図書 : 参考書、参考資料などは授業内で適時紹介する。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	オリエンテーション	保育者をめざす自分自身の学生生活について考える。
2	子どもの育ちを支える生活	子どもの自主性、主体性について考える。
3	子どもと自然との関わり	子どもと自然環境について考える。
4	子どもと環境	子どもの生活と環境の変化について考える。
5～8	規範意識・道徳性の芽生え	テキストの事例を読みながら、園生活の中で子どもの道徳性や規範意識がどのように育つのかについて理解し、保育者としての具体的な援助を考える。
9～12	「わたしの図鑑」作り	子どもの生活や保育実践に役に立つテーマを自分で選び、「わたしの図鑑」を作成し、発表する。
13～15	子どもの生活と言葉	子どもの言葉を豊かに育むための保育者の関わりなどについて学ぶ。

§ 6. 保育内容研究

科目名 : 保育内容総論

(1年次, 演習1単位)

担当教員氏名 : 本田 幸

授業の目標及び概要

この授業では、保育内容についての具体的なイメージをつかみ、幼稚園や保育所で過ごす子どもの生活を通して、保育内容とは何かについて学習する。幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育の基本姿勢を踏まえながら、保育内容が5つの領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）が統合されたものであることについての理解を深め、保育内容の全体的構造を学ぶ。さらに子どもの発達のおおまかな道筋を理解し、子どもに即した保育内容の展開について学ぶ。

評価の方法 : 出席・授業態度 (10%)、レポート等 (20%)、筆記試験 (70%)

テキスト : 近藤幹生編 『保育内容総論』 青踏社

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

参考図書 :

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	保育内容とは	保育内容を学ぶ上での基本姿勢と視点について理解する。
2	幼稚園で展開される生活①	幼稚園の一日の生活から保育内容を理解する。
3	幼稚園で展開される生活②	
4	保育所で展開される生活	保育所の一日の生活から保育内容を理解する。
5	幼稚園教育要領と保育内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容の基本的考え方について理解する。
6	領域と保育内容①	領域「健康」と保育内容について理解する。
7	領域と保育内容②	領域「人間関係」と保育内容について理解する
8	領域と保育内容③	領域「環境」と保育内容について理解する。
9	領域と保育内容④	領域「言葉」と保育内容について理解する。
10	領域と保育内容⑤	領域「表現」と保育内容について理解する。
11	年齢による保育内容①	0, 1, 2歳児期における子どもの姿と保育者の援助について理解する。
12	年齢による保育内容②	3, 4, 5歳児期における子どもの姿と保育者の援助について理解する。
13	保育内容と遊び①	VTRにより、遊びを豊かにする環境構成について学ぶ。
14	保育内容と遊び②	遊びの特性、保育者の遊びを支える援助を学ぶ
15	まとめ	

科 目 名： 保育内容研究 (2年次, 演習2単位)

担当教員氏名： 二階堂 邦子・石山 直樹・(一部は関連教科目担当者による指導)

授業の目標及び概要

子どもの発達、保育内容の成り立ちを学んでいる中で、子どもの視点を通して表現活動を行い、子どもたちの前で発表することによって、その総合性を理解する科目である。

子どもたちにとってよりよい表現活動を展開するにはどうしたらよいか、テーマの選定、構成、役割、衣装、照明、大道具をグループで協力のもと、創作する。さらに、その活動の中で互いに認め合い、助け合い、高め合い、人間としての質を高める。

評価の方法： 活動への参加度、グループ活動(プロセス・発表内容)、レポート等、総合的に評価する。

テキスト： 特になし。適宜プリントを配付する。

参考図書： 授業の中で紹介する。

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	オリエンテーション①	授業のねらい
2	オリエンテーション②	テーマを選定するにあたり、教材研究
3	オリエンテーション③	グループ分け、役割分担、進め方
4~8	グループごとの自主的活動	発表内容・テーマ決め、「発表内容計画書」提出
9	オリエンテーション④	今後の進め方(照明、音響、衣装、大道具についての説明)
10~14	グループごとの自主的活動	全体の展開内容をかためる、(ステージ練習)、台本の提出
15	前半の活動の振り返り	前半の取り組みについてのレポート作成
16	オリエンテーション⑤	保育内容研究発表会に向けての今後の準備の進め方・留意点
17~19	グループごとの自主的活動	今後の日程における準備計画を作成、(ステージ練習)
20	第1回リハーサル	各グループの進捗状況が確認され、指導助言を受ける
21~23	グループごとの自主的活動	衣装、大道具等の準備も進める(ステージ練習) マイク、音響、照明等の最終確認
24	第2回リハーサル	各グループの進捗状況が確認され、指導助言を受ける
25~26	グループごとの自主的活動	発表内容の総仕上げ、(ステージ練習)
27	第3回(最終)リハーサル	本番に向けての最終的な指導助言を受ける、写真撮影
28	グループごとの自主的活動	発表内容の最終チェック、仕上げ
29	「保育内容研究発表会」	グループごとにその発表内容を子どもたちに披露する
30	授業のまとめ	大道具の片付け、活動・取り組みを振り返ってのレポート作成

科目名 : 健康 I (指導法)

(1年次, 演習1単位)

担当教員氏名 : 本田 幸

授業の目標及び概要

子どもの健康な生活や安全についての基本的事項と、幼稚園・保育所における領域「健康」のねらいおよび内容について学習することを目的とする。子どもの健康にとって、基本的な生活リズムを形成することは重要である。現代の社会において、子どもが健康と安全な生活をおくるためにどのような問題点があるのかについて考える。また、子どもが自ら体を動かす楽しさを経験し、健康で安全な生活を営む力をつけていくための保育のあり方について理解する。

評価の方法 : 授業への参加度 (10%)、レポート等 (20%)、筆記試験 (70%)

テキスト : 河邊貴子 編著『演習 保育内容 健康』建帛社

参考図書 :

授業展開予定

展開 区分	項目	内 容
1	オリエンテーション	
2	「健康」とは	健康についての定義とその内容の理解から健康の重要性を確認する。
3	子どもの心と体の健康 I	子どもの健康と生活リズムの形成について理解する。
4	子どもの心と体の健康 II	子どもの生活スタイルの変化と問題点について理解する。
5	子どもの身体の発達	乳幼児期の身体の発達の特徴について理解する。
6	運動能力と動きの獲得	子どもの運動能力の発達と幼児期にふさわしい運動について理解する。
7	子どもの運動能力の現状	子どもの運動能力の現状と問題点について理解する。
8	子どもの安全①	子どものけが、事故の実態と安全についての取組みについて理解する。
9	子どもの安全②	子どもの安全を守る保育の取組みについて理解する。(防災教育について)
10	領域「健康」のねらいと内容①	幼稚園教育要領における領域「健康」の捉え方について理解する。
11	領域「健康」のねらいと内容②	幼稚園教育要領における領域「健康」のねらいと内容について理解する。
12	保育実践の中での領域「健康」①	子どもが意欲的に体を動かすことの楽しさを味わうことができるような保育の取組みについて理解する。
13	保育実践の中での領域「健康」②	子どもの生活習慣の獲得における保育者の援助について理解する。
14	保育実践の中での領域「健康」③	領域「健康」における保育者の役割についてまとめる。
15	まとめ	

科目名：健康Ⅱ（指導法）（2年次，演習1単位）
 担当教員氏名：堀内弓子

授業の目標及び概要

子どもの「からだ」と「こころ」の発達と健康についての現状や問題点を理解し、保育実践に役立つ「健康」の指導法を学びます。また、科学的な視点から実践事例を分析する力量を身につけ、各種事例報告をグループ討議により、考察していきます。

評価の方法： 授業への参加度（20%）、提出物（20%）、課題レポート（60%）

テキスト： なし。プリント配布。

参考図書： 授業内で随時、紹介する。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	オリエンテーション	授業のねらい、進め方。幼児教育、保育の基本について
2	領域 健康	領域「健康」のめざすもの
3～5	健康とは	健康の定義、新しい健康観 子どもの健康をめぐる最近の問題について
6	発達と健康	子どもの「からだ」と「こころ」の発達と健康
7～11	子どもの体格・運動能力の現状と問題	体格と定量的運動能力の年代変化と問題 定性的運動能力の年代変化と問題
12	子どもの生活スタイル	子どもの生活リズムと問題点 子どもの生活習慣の形成と指導
13	運動体験を広げる体育的行事	保育の成果を公開する行事—運動会 季節感のある運動あそびが体験できる行事—水あそび・プールあそび 環境とかかわるなかで運動あそびが育つ行事—園外保育 親子のふれあいをとおして運動あそびをはぐくむ行事
14	子どものあそびの発達と健康	こどものあそびを豊かにするための保育者の役割
15	まとめ	

科目名：人間関係（指導法）（2年次，演習1単位）

担当教員氏名：河西恵子

授業の目標及び概要

母親（保育者）との関係を通しての乳幼児初期の心の発達とその留意点を学ぶ。保育者との関係の中で子どもが真に求めるもの、その時々子どもが表すことばや動きの意味についての理解を深める。
子どもの成長に関与することになる自分自身をみつめ、新たな認識をもつ。

評価の方法：授業への参加度（30%）、レポート2題（40%、30%）

テキスト：河合隼雄「こころの子育て」朝日新聞社

参考図書：平井信義 他『保育の心』建帛社
渡辺久子 他『乳幼児・ダイナミックな世界と発達』安田生命社会事業団
河合隼雄『子どもと悪』岩波書店
河合隼雄『こころの子育て』朝日新聞社
D. W. ウィニコット（訳：猪股丈二）『赤ちゃんはなぜ泣くの一上・下巻』星和書店
津守真『子どもの世界をどうみるか』日本放送出版協会

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	オリエンテーション	授業での動機づけ。本授業での中心テーマを共有する
2～5	乳幼児初期のかかわり	母親（保育者）との関係を通して育つ心の発達と保育者としての留意点、さらにビデオを通して母子の具体的なかかわりの姿を観て話し合う
6～8	保育者としての自分をみつめる	演習を実施し自分をみつめる機会をもつ 日常の人との関係の在り方を具体的な例をとりあげながら見つめてみる
9～10	子どもや親への援助	相手を理解し関係性を深めるための話し合いや実習
11～15	乳幼児保育の実際	保育事例や、ビデオでの保育場面を観て、各自の意見、感じたものを出し合いながら、子どもが表すことばや動きの意味を理解し、保育者に求められるものを考える 他、実習などで体験した子どもとのかかわりへの学生からの具体的質問について検討する

科目名： 環 境（指導法） （2年次、演習1単位）

担当教員氏名： 窪 木 幹 夫

授業の目標及び概要

幼児は遊びの中で周囲の環境と親しみ、自然と触れ合う中でさまざまな事象に興味や関心をもち、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようと経験を積み重ねる。幼児のこの主体性を育むために、どのような環境構成が適切なのか、遊び環境、自然環境における保育者の援助を考える。

評価の方法： レポート（60%）、授業への参加度（40%）

テキスト： 指定しない

参考図書： 必要に応じて紹介する。

授 業 展 開 予 定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	内容とねらい	環境とは。 環境を通じた保育・教育とは。 保育者のさまざまな役割。
2～7	自然に親しみ、生き物や植物に触れる	季節の変化に気づく。黄葉、紅葉、落葉。 紅葉カレンダーをつくる。 球根の水栽培。 種子の旅。風散布。動物散布。 落葉樹の冬芽。 カエルとザリガニの飼育。
8～9	文字や標識、数量や図形に関心をもつ	折り紙飛行機。 折り紙で図形を認識する。 シャボン玉、サイコロをつくる。
10～11	ものや道具にかかわって遊ぶ	牛乳パックでおもちゃを作る。 種子や落ち葉で遊ぶ。 押し花、拓本、版画。
12～14	子どもと環境のかかわりをとらえる視点	野鳥を窓辺に呼ぶ。 ヤゴ救出作戦。 ミニビオトープを造る。
15	野外の危険生物	キイロスズメバチ、チャドクガ、ヒキガエル カミツキガメ、ハシブトガラス。 予防と処置。救急キット。

科目名：言葉 I (指導法) (1年次, 演習 1単位)

担当教員氏名：細野美幸

授業の目標および概要

この授業では、子どものことばの発達について、それを支える心の発達と関連づけて理解することを目的とする。演習では発表を行い、互いに批評し合う。理論の理解・演習での実践・批評によって、子どものことばについての理解を深めていく。なお、毎回授業中に感想やコメントを書き、その提出をもって出席の確認となる。

評価の方法： 授業態度 (30%)，授業内発表 (30%)，筆記試験 (40%)

テキスト：説明用資料を授業内に配布する。

参考図書：今井和子「子どもとことばの世界」ミネルヴァ書房

他は授業内で適宜紹介する。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	授業ガイダンス	授業の目的・進め方・評価方法などについて説明
	なぜ「ことば」か	ことばを育てることの意義と方法について考える
2~3	会話の発達	ことばの役割, 会話の発生・理解・産出・発達を支える知的能力
4	演習	子どもと大人の会話に耳をすます
5~6	乳児期のことば	聴覚発達、愛着の形成、発声行動の変化、指さし、象徴機能の発達
7	1歳児のことば	初語、一語文・二語文の獲得、般用、言い誤り
8	2歳児のことば	多語文と従属文、自我の芽生え
9	3歳児のことば	語彙の増加、想像力の発達、比喩と造語
10	4歳児のことば	長い発話、虚構と現実の区別、子どもの質問、いざこざ場面でのことば
11	5歳児のことば	物語行動の発達、ことばの使い分け、内言と外言、一次のことばから二次のことばへ
12	演習	ことば遊びを調べて発表する
13	読み書き能力	文字への興味、音韻的意識の形成、就学後の読み書き能力
14	絵本との出会い	絵本の理解、ブックスタート運動、声の調子が与える影響
15	聴こえとことばの障害	聴こえとその障害、話すことの障害、言語発達遅滞の事例

科目名：言葉Ⅱ（指導法）（2年次，演習1単位）

担当教員氏名：細野美幸

授業の目標および概要

この授業では、子どものことばの聞き方・保育者としての言葉かけのありかた・子どもに分かってもらえる表現の仕方について考え、実践することを目的とする。演習では発表を行い、互いに批評し合う。ことばの発達について自ら考え、演習での実践・批評を繰り返し、またビデオなどの視聴覚教材を使って、子どものことばと保育者のことばについて理解を深めていく。なお、毎回授業中に感想やコメントを書き、その提出をもって出席の確認となる。

評価の方法： 授業態度（20%）、授業内発表（20%）、レポート（60%）

テキスト：説明用資料を授業内に配布する。

参考図書：今井和子「こどもとことばの世界」ミネルヴァ書房

内田伸子「発達心理学～ことばの獲得と教育」岩波書店

他は授業内で適宜紹介する。

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	授業ガイダンス 保育者と子どものことば	授業の目的・進め方・評価方法などについて説明 「みてて」発話の意味と時期による変化
2～3	ことばが遅滞するとき	養育放棄の中での子どもの育ち：発達の可塑性
4	ことばの獲得過程Ⅰ	聴覚発達、発声行動の変化、マザリーズ
5	ことばの獲得過程Ⅱ	語彙獲得、一語文・多語文の獲得、言語発達の一応の達成期
6	身振り行動の発達	身振りの役割、身振りの行動の発達の变化、子どもの身振りの特徴
7～10	言語発達障害	言語発達障害の基礎、上手な言葉かけ
11	場面緘黙・引っ込み思案	場面緘黙の特徴と事例、引っ込み思案の特徴と事例
12～13	社会的ルール理解	ルール理解の発達、保育場面でのルール獲得の事例
14～15	安全教育	安全教育の理解、子どもの目撃証言、子どもへの質問と報告の聞き方

科目名：表現 I (指導法) (1年次, 演習1単位)

担当教員氏名：佐々木 梯子

授業の目標及び概要

この講義では保育士として基礎的なリトミック指導ができるようにすることを目標にする。
音楽を聴き感じたものを表現し目的に従って即時的に反応します。指導法に時間をかけ、すぐ保育の現場に役立つよう習得する。

評価の方法： 授業態度 (30%)、リズム・即興・リトミック指導 (70%)

テキスト： 岩崎光弘 他著
「保育園 幼稚園のためのリトミック」
年間カリキュラムとその実践 3歳

授業展開予定

展 開 区 分	項 目	内 容
1	表現 I の進め方	リトミックについて説明 リズム運動の導入 自然運動の導入
2~4	リズム運動 ソルフェージュの導入	基礎リズム 拍子 リズムパターン 連鎖リズム カノンを経験する ハンドサインを使い音階を歌う
5	リトミック指導法準備	リトミック指導のVTR視聴
6~15	指導法	履修者全員指導を経験する

科目名：表現Ⅱ（指導法）（1年次，演習2単位）

担当教員氏名：兼子真理

授業の目標及び概要

特に造形表現の領域から「幼児の表現活動」に近づき、理解し、その好ましい援助の仕方を模索する。
同時に演習を通して表現活動の楽しさを体験すると共に、材料、用具の使い方や幼児が楽しむいろいろな技法等を学ぶ。

評価の方法：演習への取り組み（50%）、提出物（50%）

テキスト：熊本高工編『表現の指導 造形』同文書院

参考図書：講義中に紹介します

授業展開予定

展開区分	項目	内容
1	ガイダンス	授業内容と授業の進め方の説明等
2	幼児の表現活動	その意義、内容および幼児の造形能力の発達（導入）
3～15	演習	演習内容の説明：方法、意義、目的 紙であそぶ 粘土であそぶ 描画材料の種類 描画材料の機能と発展 技法あそび-1 みんなで描く 旗は小児体育の授業で使用予定
	他教科との関連	
16		（前期授業のまとめたスケッチブックを提出） 演習内容の説明：方法、意義、目的
17～28	演習	伝承的な造形あそび いろいろな材料であそぶ いろいろな材料でつくる 技法あそび-2 紙でつくる 紙に写す
29～30	まとめ	造形能力の発達 幼児画の特徴

§ 7. 保育実習・教育実習

科 目 名： 保育実習Ⅰ (1・2年次, 実習4単位)

保育実習Ⅱ・Ⅲ (2年次, 実習各2単位)

担当教員氏名：佐野 眞弓・細野 美幸・滝口 節子

授業の目標及び概要

保育士資格を取得するために行う実習です。

「保育実習Ⅰ」(必修科目・4単位)、「保育実習Ⅱ」(選択必修・2単位)、「保育実習Ⅲ」(選択必修・2単位)があります。必修科目である「保育実習Ⅰ」には、保育所に於ける実習と保育所以外の児童福祉施設に於ける実習があります。「保育実習」を履修した後に、保育所で行なう「保育実習Ⅱ」、または児童福祉施設で行う「保育実習Ⅲ」のどちらかを選択して更に学びを深めます。各実習のためには、事前及び事後学習として「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導」を履修しなければなりません。

評価の方法：主に実習園の評価に基づく

保育実習 (保育士証)

	必修 選択	学年	実習先	内 容	日数	実 施
見学実習	必	1	保 育 所	見 学	1	6月7日(火)
保育実習Ⅰ (保育所)	必	1	保 育 所	観 察・参 加	12	2月～3月
保育実習Ⅰ (施設)	必	2	児 童 養 護 施 設	観 察・参 加	10	4月～12月
保育実習Ⅱ	選	2	保 育 所	参 加・責 任	15	9月
保育実習Ⅲ	選	2	児 童 福 祉 施 設	参 加・責 任	15	9月

科 目 名： 教 育 実 習 （1・2年次，実習4単位）

担当教員氏名：佐野 眞弓・細野 美幸・滝口 節子

授業の目標及び概要

幼稚園教諭二種免許状を取得するために行う実習です。

入学直後に本学の附属幼稚園で、「見学実習」に参加します。幼稚園を知り、保育学生としての実習を体験し、実習生としての心構えを学びます。

「1年次教育実習」を1年9月に行います。主に見学と観察を通して、幼稚園における幼児教育の実際と幼稚園教諭に求められる知識・技術・能力の基礎を形成します。

2年6月の「2年次教育実習」では、1年次教育実習の学習成果をもとに、参加・責任実習を通して幼稚園教諭に求められる知識・技術・能力を実践的に身につけます。

評価の方法： 主に実習園の評価による

教 育 実 習 （幼稚園教諭二種免許状）

	必修 選択	学年	実 習 先	内 容	日数	実 施
見 学 実 習	必	1	附 属 幼 稚 園	見 学	1	5 月
1 年 次 教 育 実 習	必	1	幼 稚 園	見 学 ・ 観 察 （ ・ 参 加 ）	10	9 月
2 年 次 教 育 実 習	必	2	幼 稚 園	観 察 ・ 参 加 ・ 責 任	15	6 月

教育実習指導（1・2年次：演習1単位）

担当教員：佐野眞弓、細野美幸、滝口節子

授業の目標および概要

履修期間は1, 2年次にわたります。在学期間に行う計3回の教育実習の事前・事後の学習を中心に行います。その他、実習に臨む学生として必要となる知識・技術・能力を習得し、実習を通しての育ちを確かなものにする活動等に取り組みます。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。

また、1年6月から各自が創意工夫して「私の実習ノート」を作成します。これは、実習のための、実習による学びの記録です。

テキスト：

二階堂邦子「教育・保育・施設実習書」建帛社

相馬和子・中田カヨ子編「実習日誌の書き方」萌文書林

「保育所保育指針解説書」厚生労働省

「幼稚園教育要領」文部科学省

「幼保連携型認定こども園教育保育要領」 内閣府

幼少年教育研究所「新版『遊びの指導』乳幼児編」 同文書林

田上貞一郎「保育者になるための国語表現」萌文書林

1	幼稚園と附属幼稚園実習の理解
2	実習体験の振り返り
3	幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育保育要領を学ぶ
4	実習オリエンテーション（前期集中）①
5	実習オリエンテーション（前期集中）②
6	1年次教育実習 事前学習①
7	1年次教育実習 事前学習②
8	前期実習指導のまとめ
9	実習オリエンテーション（夏期集中）③
10	実習オリエンテーション（夏期集中）④
11	実習オリエンテーション（夏期集中）⑤
12	実習オリエンテーション（夏期集中）⑥

1 3	1年次教育実習 事後指導①
1 4	1年次教育実習 事後指導②
1 5	実習記録日誌の書き方の振り返り
1 6	指導計画の理解と立て方
1 7	指導計画の実践
1 8	2年次教育実習 事前指導①
1 9	2年次教育実習 事前指導②
2 0	2年次教育実習 事後指導①
2 1	2年次教育実習 事後指導②

保育実習指導 I (1・2年次：演習2単位)

担当教員：佐野眞弓、細野美幸、滝口節子、岡本眞幸、スティーブン・トムソン

授業の目標および概要

履修期間は1, 2年次にわたります。保育所見学・保育実習 I (保育所)・保育実習 I (施設) の事前・事後の学習を中心に行います。その他、実習に臨む学生として必要となる知識・技術・能力を習得し、実習を通しての育ちを確かなものにする活動等に取り組みます。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。

また、1年6月から各自が創意工夫して「私の実習ノート」を作成します。これは、実習のための、実習による学びの記録です。

テキスト：

二階堂邦子「教育・保育・施設実習書」建帛社

相馬和子・中田カヨ子編「実習日誌の書き方」萌文書林

「保育所保育指針解説書」厚生労働省

「幼稚園教育要領」文部科学省

「幼保連携型認定こども園教育保育要領」 内閣府

幼少年教育研究所「新版『遊びの指導』乳幼児編」 同文書林

田上貞一郎「保育者になるための国語表現」萌文書林

1	授業オリエンテーション
2	実習の意義・目的・内容の理解
3	実習の段階・内容・方法の理解
4	実習園の概要
5	実習に生かす保育技術
6	実習記録日誌・(部分) 指導案の意義と書き方①
7	実習記録日誌・(部分) 指導案の意義と書き方②
8	保育技術の実践
9	実習の流れ・手続き・書類作成
10	子どもの生活と遊びの理解
11	子どもの生活と発達の理解

1 2	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領を学ぶ①
1 3	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領を学ぶ②
1 4	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方①
1 5	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方②
1 6	指導案に基づく保育実践
1 7	映像による児童養護施設の理解
1 8	児童養護施設の概要
1 9	映像による保育所の理解
2 0	保育実習 I（保育所） 事前学習①
2 1	保育実習 I（保育所） 事前学習②
2 2	1年次・2年次の話し合いによる学びの強化（1・2年合同）
2 3	実習オリエンテーション（冬期集中）①
2 4	実習オリエンテーション（冬期集中）②
2 5	実習オリエンテーション（冬期集中）③
2 6	実習オリエンテーション（冬期集中）④
2 7	保育実習 I（児童養護施設） 事前学習①
2 8	保育実習 I（児童養護施設） 事前学習②
2 9	保育実習 I（保育所） 事後学習①
3 0	保育実習 I（保育所） 事後学習②

保育実習指導（2年次：演習1単位）

担当教員：佐野眞弓、細野美幸、滝口節子、岡本眞幸、スティーブン・トムソン

授業の目標および概要

履修期間は2年次です。保育実習Ⅱおよび保育実習Ⅲの事前・事後の学習を中心に行います。参加する実習の種別によってグループに分かれ学習を行います。その他、実習に臨む学生として必要となる知識・技術・能力を習得し、実習を通しての育ちを確かなものにする活動等に取り組みます。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。

また、2年11月までに各自が創意工夫して「私の実習ノート」を仕上げます。これは、実習のための、実習による学びの記録です。

テキスト：

二階堂邦子「教育・保育・施設実習書」建帛社

相馬和子・中田カヨ子編「実習日誌の書き方」萌文書林

「保育所保育指針解説書」厚生労働省

「幼稚園教育要領」文部科学省

「幼保連携型認定こども園教育保育要領」内閣府

幼少年教育研究所「新版『遊びの指導』乳幼児編」同文書林

田上貞一郎「保育者になるための国語表現」萌文書林

1	児童福祉施設と保育士の仕事の理解
2	保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ 事前学習①
3	保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ 事前学習②
4	保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ 事前学習③
5	実習オリエンテーション（夏期集中）①
6	実習オリエンテーション（夏期集中）②
7	実習オリエンテーション（夏期集中）③
8	実習オリエンテーション（夏期集中）④
9	保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ 事後学習①
10	保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ 事後学習②
11	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）①

1 2	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）②
1 3	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）③
1 4	実習報告会
1 5	1年次・2年次の話し合いによる学びの強化（1年・2年合同）
1 6	実習指導の総まとめ

発行 横浜女子短期大学
〒234-0054
横浜市港南区港南台4-4-5
TEL 045-833-7100(代表)
FAX 045-832-7246
発行日 平成28年4月1日